

我が校のものがたり

— かけがわ学力向上ものがたり (別冊) —

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにしたら学力の向上が図れるか、その理念や方法等を「ものがたり」としてまとめた「かけがわ学力向上ものがたり」を、平成26年3月に策定しました。

さらに、各学校においては、児童生徒の学習状況に基づいた各学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成しました。今後、これを基盤として全教職員が共通理解のもとに組織的な協働を図り、学力向上への積極的な授業改善を進めていきます。

今後も、子どもの学力向上の実現に向け、学校と家庭・地域、教育委員会が連携して取り組み、掛川の一人一人の子どもを育む教育活動の充実に努めてまいります。

平成26年6月
掛川市教育委員会

目 次

頁

【小学校】

1	日坂小学校	2
2	東山口小学校	4
3	西山口小学校	6
4	上内田小学校	8
5	城北小学校	10
6	第一小学校	12
7	第二小学校	14
8	中央小学校	16
9	曾我小学校	20
10	桜木小学校	22
11	和田岡小学校	24
12	原谷小学校	26
13	原田小学校	28
14	西郷小学校	30
15	倉真小学校	32
16	土方小学校	34
17	佐束小学校	36
18	中小学校	38
19	大坂小学校	40
20	千浜小学校	42
21	横須賀小学校	44
22	大淵小学校	46

【中学校】

23	栄川中学校	50
24	東中学校	52
25	西中学校	54
26	桜が丘中学校	56
27	原野谷中学校	58
28	北中学校	60
29	城東中学校	62
30	大浜中学校	64
31	大須賀中学校	66

小 学 校

掛川市立日坂小学校

第5章 我が校のものがたり



日坂小学校の子どもたち



素直で、こつこつと
課題に取り組む。

子どもどうし、お互いをよく知りあ
い、家庭的な温かい雰囲気がある。

より成長を図るために

栄中学区一貫研修テーマ

「じっくり考え、表現できる子～進んでかわり 自分を深める」

志

校内研修の充実と日常的な授業改善

- ①年間6回の公開授業と事後研修
- ☆国語科の説明的な文章教材を窓口として教師の授業力アップを図る。
- ☆子どもたちの着実な「読む力」の向上
- ☆説明的な文章教材でつける力の積み上げ



各学年ごとの授業の積み上げ

学年	1年	2年	3年	4年
9～10月	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめて」 「はじめて」 「はじめて」 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめて」 「はじめて」 「はじめて」 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめて」 「はじめて」 「はじめて」 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめて」 「はじめて」 「はじめて」
11月	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめて」 「はじめて」 「はじめて」 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめて」 「はじめて」 「はじめて」 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめて」 「はじめて」 「はじめて」 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめて」 「はじめて」 「はじめて」

- ②外部の人材から学ぶ、活用する

- ☆司書教諭との連携
- ☆一貫研合同研修会での授業研修
- ☆静西教育事務所指導主事を迎えて夏期校内研修



司書教諭による季節のブックナー

式

日常的な言語力向上のための学習活動



①音読発表会

- ☆年3回全校児童による音読活動
- ☆全校音読の百人一首

保護者の方も参観していただきます。
みんなの前で創作した詩や教材文を音読します。



②スピーチタイムの設定

朝の会、帰りの会、集い、ステージ式等

③2月の全校百人一首大会

1年を通して、百人一首の段や級に
チャレンジ

④国語辞典を常備、活用

3～6年生、一人一冊配備

⑤言葉の力をつける時間（火曜朝）

- ☆国語辞典の引き方
- ☆正しく視写
- ☆慣用句、ことわざ
- ☆文法の問題

参

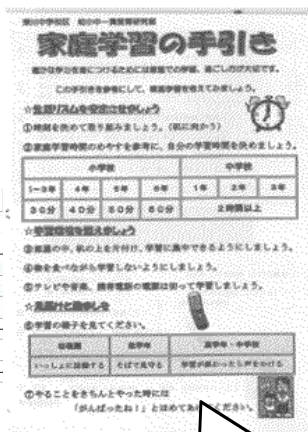
家庭学習の充実と児童の実態把握・手立て

①家庭学習の充実

- ☆栄中一貫研家庭学習の手引きの活用
(1, 2年は30分 3～6年は学年×10分)
- ☆家庭での学習時間の設定への協力を求める。

本よみカード	よんだところ ○ほらほらじょうずによめた ○まちがえがよめた △がんばりだ!	お家のひととさめた 学ぼうの時間				わが家のもの おうちの人から おうちの人から おうちの人から	先生から
		おとうさん	おとうさん	おとうさん	おとうさん		
3日(火)							
3日(火)							
4日(水)							

家族と相談して決めた勉強時間
生活リズムが整います。



栄中区家庭学習の手引き

②児童の実態把握・手立て

- ☆年2回のぐんぐんテスト
(保護者との面談での活用、その後の指導のための実態把握、対策検討資料)
- ☆個別ファイル記録による児童の学習状況の共有化
- ☆全国学力・学習状況調査の全職員での採点と結果分析

掛川市立東山口学校

第5章 我が校のものがたり

「樹木が育つように」子どもたちの学びを支えたい

東山口小学校の子どもたちは真面目に一生懸命学ぼうとする子が多い。単学級で生活しているため話し合い活動も活発にできる。放課後学習「寺子屋」やチャレンジテストに取り組むことで基礎基本の力もついてきた。一方、そこには個人差があり今後も個別に対応していく必要がある。また、学習に対して受け身などところがあり、自ら学ぼうという意識が低い。これらの実態を踏まえ、「樹木が育つように」子どもたちの学びを支えていくのが本校の学力向上物語と考える。



学習の基盤づくり（学びの幹をつくり、枝葉を生い茂らせるために）

⑤ 学習支援環境＜寺子屋(放課後学習支援教室)＞

- ・毎週月曜日の放課後に学習支援教室「寺子屋」を設定。児童一人一人に個別の支援行う。
- 内容例：国語・算数の復習ドリル、ことわざや文法学習、高学年では、詩や説明文の読解力を高める学習等

⑤ 学習支援環境＜夏休み寺子屋＞

- ・夏季休業中に3日間、「夏休み寺子屋」の日を設定。一斉学習で習得が不十分な児童や家庭学習の習慣がつかない児童等を対象に全職員で個別指導に当たる。
- 合わせて「水泳特訓」（泳げない子の水泳指導）を実施。

④ 校内自主テスト

年間3回の国語・算数チャレンジテストを実施。ドリル学習や放課後寺子屋の時間に学習した内容から出題。児童は目標合格点に達するまで繰り返しチャレンジ、基礎的な力を伸ばしている。

本年度は加えて文章の読解や文法的なものも取り入れる。

② 「発表名人表」の取組

聴き方・話し方をレベルアップさせるために、全校共通で「発表名人表」に取り組む。常に児童に意識させ取り組むことで、話す力・聴く力を育てていく。

③ 語彙を豊かにする指導

【言葉の指導】
言葉にこだわった聴き方、話し方、読み取り方や辞書の活用。「今月の詩」の暗唱などの取組により語彙力アップを目指す。

【読書指導】
毎朝10分間の読書タイム。静かに本に親しむ時間を設定。学級文庫には「この本、読もう」（国語教科書巻末付録参照）を置き、推薦図書にふれる環境を整えている。学年に応じた読書目標を設定、記録を記入させ、毎ステージごと到達度をチェック。職員やボランティアによる読み聞かせや親子読書の実施。

① 安心して学び合える学級づくり

本校が子どもの学力向上に向けて一番大切にしていることは、学級づくりである。安心して自分の意見が言える、学び合える、支持的風土の醸成を目指して全職員で取り組んでいく。



職員研修の充実（学びの根を確かめ、授業改善の推進のために）

① 校内研修の活性化

研修の窓口教科を「国語科」とし、願う子どもの姿を目指して研修に取り組んでいる。

【テーマ】 「進んで表現し、深め合う授業」

- 願う姿
- ・自分の考えを進んでわかりやすく伝える。
 - ・友達の考えを自分と比べながら聞き、深く考えて書いたり話したりする。
- （低）言葉を豊かに使い順序よく話す （高）言葉を選んで使い要点をまとめて話す

【授業づくり三原則】

- ・根拠を持って考えをつくる場の設定
- ・考えを深めるための伝え合う場の設定
- ・わかったこと（つけたい力）をまとめる場の設定



② 栄川学園共通の取組

【互いに学び合う授業公開】

年間3回の授業公開と4回の保育公開を行い、1園3校の教諭が3グループに分かれて学び合っている。共通のテーマである「じっくり考え、表現できる子」の育成を目指し、各校がどのような手立てを持って授業づくりをしているのか、その具現を見て話し合う一貫教育研修会を年間3回予定している。教師は12年間を見通した視点で子どもの学び方について研修を深める。

【学習ルールの一】

- ・「話す・聞く」ルール……友達の方を向いて話す聞く、聞くときは聞く、書くときは書く。
- ・「ノート」のルール……日付を書く、詰めて書かない、学習課題（学習問題）は赤で囲む。全ての教科で考えの足跡を残す、「振り返り」自分の考えの軌跡を書く。
- ・「家庭学習」のルール……中学校区一斉に作成した「家庭学習の手引き」を全戸に配布し、幼稚園から中学校までの家庭学習の仕方を保護者にも理解していただき、家庭学習の充実を図る。

東山口小学校は、全職員が全児童を理解し関わることで安定した学校づくりがなされている。地域の協力も得られ、栄川学園の園・学校とも連絡を密にとることができる。この小規模校の利点を生かして子どもたちに質の高い学びを保障していく。

掛川市立西山口小学校

第5章 我が校のものがたり

1 「我が校のものがたり」がめざすものは・・・

こんな西山口の子を育てたい！（めざす児童像）

- (1) 基本的な生活習慣（挨拶、時間・時刻、食、身の回りの整理整頓等）を身につけた児童。
- (2) 自分の夢（目標、願い等）を実現するために、自ら学ぶ児童。また、自分を成長させるための試練に立ち向かう児童。
- (3) 協力することの大切さや他者を思いやる心をもった児童。

だから、私たち教職員は 宣言します！

- (1) 子ども一人ひとりを大切にします！
よさを認め、ほめることはもとより、「子ども一人ひとりに合った試練の場」を設定し、逃げず、挑み、小さくても成就感を味わうことができる支援をします。
- (2) 謙虚に学び続けます！
保護者、地域、社会の思い・動きを知り、学び・授業改善に日々取り組みます。
- (3) 支え合い、学び合う「チーム西山口教職員」を構築します！
同僚・保護者・地域の方々とのパートナーシップを大切にします。

そのために、26年度西山口小は・・・

重点目標「相手の思いを受けとめ 自分の思いを伝えよう」を設定しました。子ども一人ひとりの学びを大切に、言語活動の充実を図ることによって、この重点目標達成をめざします。

2 「我が校の子どもたち」の今を見つめると

- (1) 「進んであいさつができる子」が25年度：95%（24年度：92%、23年度：87%）。
- (2) 「自分の考えを進んで伝えられる子」が25年度：84%（24年度：76%、23年度：77%）。
- (3) 「楽しく学校に来ている子」が25年度：97%（24年度：95%、23年度：93%）。
- (4) 全国学力・学習状況調査や国語算数定着度調査の結果から、基礎的基本的な学習内容は概ね定着しているが、思考力・判断力・表現力を要する問題を解決する力が弱い。また、家庭における学習が質・量ともに不足している（自主的な予習復習の実施率が低い、家庭での読書量が少ない）。

3 だから、我が校の学びのものがたりの具体を次のように考えました

(1) 「基礎基本の確実な定着」のためのものがたり

学力向上の取組	具体的な取組方法
朝活動「ぐんぐんタイム」	毎週金曜15分間で国算の基礎学力定着をめざした学習を授業として実施
国算復習テスト	7, 9, 12, 1, 2月に学習の定着度把握と個別指導充実のために、テスト期間を設定して全校一斉に実施
夏休みチャレンジ教室	夏休休業中に3日間、定着の低い児童を取り出して指導（国算指導：各学級担任）（水泳指導：級外教員）
放課後「とことん学習」	年間数回程度（1回の期間は1週間）、放課後に算数の定着が低い児童を取り出して指導（指導は級外教員と学区内居住の退職教員ボランティア）
朝活動「声だしタイム」	毎週月曜15分間で、伝え合いの基礎となる「声だし」や「話し方」の基礎を養う活動を実施

(2) 「家庭と学校のパートナーシップにより、子どもの学びを支える」ためのものがたり

学力向上の取組	具体的な取組方法
「家読」の充実	全学年：親子読書（5月連休、夏休み、冬休み）実施 各学年（昨年度の例）：1年＝毎週末親子読書、3年＝保護者対象に読書講話実施、4年＝毎週末に家庭学習で読書、5年＝毎日家庭学習で読書
家庭学習の手引き	家庭学習の学校としての基準を家庭に示す。また、生活習慣改善を促す呼びかけを家庭に行う。

(3) 「授業改善・工夫」のためのものがたり

学力向上の取組	具体的な取組方法
習熟度別（コース別）指導	3年生以上の全算数授業は「各学年の学級担任＋級外教員」で習熟度に応じた学習集団を編制して少人数指導
TT指導	1年生の国算・2年生の算数は週1回TT指導

(4) 「西山口小 学び方のユニバーサルデザイン（全教員・全教室・全授業での共通実践）」のためのものがたり

～～学びづくり部年間計画（平成26年度）～～ ※抜粋

	4/7 (月)～6/17 (火)	6/18 (水)～10/10 (金)	10/14 (火)～12/22 (月)	1/6 (火)～3/20 (金)	
	『なかま』のどん	『チャレンジ』のどん	『じまん』のどん	『ありがとう』のどん	
	見て聴く 最後まで聴く	反応しながら聴く	つなげて発表	はっきりと伝える	
学 び つ く り 部	聞 く 話 す	◎何も持たず、目を見て聴く ◎最後まで聴く	◎うなずきながら聴く ◎聴いたら反応「あいうえお」	◎反応から発表へ 「以ていて…」 「でも…」 「他に…」	
	基 礎	◎相手を意識して話す ・伝わる声「声のダイヤル」 ・人が多い方を向いて	◎反応を確かめながら、 最後まで話す	◎「話し始めの言葉」をつかって話す ◎「話し始めの言葉」を増やす	
	学 習	◎学習のルールの徹底 ・物構えと心構え	◎時間を守る ○ルールの確認	◎自分の考えをつくる、 伝える機会の設定	◎「めざす授業」を実践し 自慢を発表する ・達成度を振り返る ・自分、友達、学級の成 長を認め合い 伝え合う場をつくる
	出 発	◎始業・終業のあいさつ ◎「めざす授業像」設定 ☆ミニテストの日常化	・次時の準備をして休み時間 ◎わかりやすいノート作り ・日は、赤枠、青枠 の徹底	◎振り返りの時間の確保 ・良さや伸びを認め合い、 自信をつける	
T	◎元気な声で、はっきりと ・今月の詩を全校で読む ◎自己紹介をしよう	◎朗唱しよう ・目標を決め、達成を目指す	◎自分の考えを伝えよう（スピーチ） ・話し手の意見を要約する ・質問する		

(5) 「言語活動の充実により、学力をのばす」ためのものがたり（教員の研修）

- ① 国語科：単元を貫く言語活動を設定し、身に付けさせたい力をつけます。
- ② 算数科：思考し判断し表現することを伴いながら、授業のねらいを達成するための言語活動を設定します。
- ③ 市教委指定研究「言語活動の充実」発表会（11月28日）において、これまでの研修の成果を発表します。

(6) 全国学力・学習状況調査を日々の授業改善に生かすためのものがたり

学力向上の取組	具体的な取組方法
プレテスト実施（1月）	5年生がその年度の国A・算A、国B・算B問題を解く
授業改善策の研修会	上記の解答を全教員で採点、分析し、授業改善の成果と課題を明らかにして授業に生かす点を共通理解する
問題集の活用	5年生が、県のチアアップシートを朝活動のくんぐんタイムで扱い、基礎学力の定着を図る
本調査の自己採点（4月）	本調査全児童解答用紙のコピーをとり、全教員で採点、分析し、授業改善の成果と課題を明らかにして授業に生かす点を共通理解する

掛川市立上内田小学校

第5章 我が校のものがたり

「わかった!」「できた!」

読む・書く

- 図書館司書の活用
ブックトークなどを行い、いろいろな本と出会う場をつくる
- 図書の本や資料の充実
総合的な学習や各教科での調べ学習などに活用する図書や資料を揃える
- 子ども新聞の購読・カルタの活用
新聞を通して社会への関心を持ち、読むことに慣れる
- 作文タイムの活用
「条件にあった文」「短時間」を目標にして書くことに慣れる

○読書活動

- ・朝の読書・読み聞かせ
- ・学校図書館の有効活用
- ・移動図書館、市内図書館の利用促進

学ぶ意欲

- 「学びの時間」の充実
・月曜日放課後の補充・発展学習
・個に応じた指導
- 教材研究の時間の確保
・金曜日放課後に教材研究の時間の設定
・教材教具の準備
- 掛東中生によるサマースクールの実施
・教師と掛東中生（本校の卒業生）による夏季休業中の補習学習
- 授業を見る週間（年間3期）
・授業力の向上

○朝の活動

- ・ドリルタイム（漢字・計算）の補充学習
- ・国語の音読、詩の暗唱
- ・朝のスピーチ

学力向上

授業

- つきたい力の明確化
指導と評価の一体化 「学習問題」→「学習のまとめ」→力をつける
- TT授業・個別指導
- 可視化…わかりやすい板書・ICT機器の活用・ノート指導
- 個の変容と見取り
・まとめの段階での実態（ノート、発言、練習問題）
・小テスト、単元別テストによる数値化した状況把握
・授業のまとめを自分の言葉で書く



【家庭学習】

- 家庭学習の習慣づくり（家庭学習の手引き）
・低学年30分 中学年40分 高学年1時間以上
・かみうちだの学びの約束
・生活リズムの見直し、ノーメディアデー
「早寝、早起き、朝ごはん」

【にこじろう運動】

- 子どもに自信をつけさせるために自己肯定感や自己効力感を持たせ、自尊感情を高める
・子どものよさやよい表れを称揚
・子ども理解、称揚の質的向上
・担任、家庭からの称揚

全国学力・学習状況調査の分析結果を受け、本校の課題を明確にし、子どもたちに確かな学力をつけさせるために、次のような実践を積極的に進めていく。

1 授業

①つけたい力の明確化

学習指導要領の目標や内容を確認し、授業ごとにつけたい力を明確にし、手立てを講じることが大切である。つけたい力に直結する「学習問題」が起こり「学習のまとめ」でその力が培われる。つけたい力を子どもと共有し、どの子どもたちも「わかった、できた」を実感できるような授業を行っていく。

その手立てとして、つけたい力をもとに言語活動の「目的」「内容」「形態」「方法（時間や役割）」などを検討し、より効果的な活動を設定していく。また、根拠を示して話したり、読み手・聞き手を意識して説明したりする場を大切にしていく。

②可視化

「焦点化」「視覚化」「個への対応」を意識しての授業を行う。特に、「視覚化」では子どもたちの思考を助ける分かりやすい板書や、ICT 機器を活用していく。

③ TT 授業

4年生と6年生の算数を TT で行う。本年度は、学習内容が難しくなり、つまずきやすい4年生と、中学に向けて確実に力を付けたい6年生で TT 授業を行うこととした。2人の教師で授業を行うことにより、丁寧に個別に対応することができる。



2 家庭との連携とにこじろう運動

①家庭学習の習慣づくり

家庭学習が不足している子が多いので、家庭学習のしかたや工夫を教えていく。特に、今日の学習の復習を含めた自主学習を取り入れていくようにする。懇談会やお便り（家庭学習の手引き）を使って家庭にも知らせ、家庭学習を充実させていく。

②生活習慣の見直し

本校の課題に「生活習慣」がある。寝る時刻や起きる時刻の不定、1日のテレビやゲームに費やす時間が長いなどである。授業が落ち着いて行われ、集中して学習に取り組むためにも生活習慣は大切であると考え、子どもたちの普段の生活の現状を知り、家庭と連携を密にしていく必要がある。「生活リズムカード」を活用し、各学年や学校全体の現状を知り、懇談会などで家庭に知らせ、協力を求めていく。調査は、1度で終わらず、定期的に行っていくことで、「生活習慣」の向上を図っていく。

③学習用具の準備

持ち物によって学習内容以外に興味がそれたり、持ち物への興味が集中力をなくしたりする。そのため、今年度、学習に集中するために学習用具の見直しを家庭と連携し、全校で改善に取り組みはじめた。

④にこじろう運動

自己肯定感は学習意欲の基盤である。そのため、どの子も一度は活躍できる機会を意図的に計画したり、「にこじろう運動」でみんなのための行いやあきらめずがんばったことなどを、その子個人のよさとして学級・学校全体に広めたり、認めたりすることで、自己肯定感や自己効力感をもたせ、自尊感情を高めていく取組を継続して行っていく。

全職員が、本校の課題を知り、共通の認識を持って、授業改善していく。



掛川市立城北小学校

第5章 我が校のものがたり



序 今までの本校の児童は

本校の子どもたちは、授業において自分の考えを積極的に発表しようとする子、こだわりをもって考え、自分の思いや考えを他に伝えようと夢中になる子が多い。

清々と表現をすることができるということは、授業での話し合いも充実したものとなり、子どもたちの「考える力」「伝える力」を育み、伸ばすことができる。

これは、本校の児童の素晴らしい面であり、今後も大切にし、伸ばしていく。そして、子どもたちが自分の「高まり」を実感できるような授業づくりをめざしていく。

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果から、応用的な思考が必要なB問題において、国・算ともに全国平均を上回ったことから論理的に考える力や、考えをまとめ伝える力が高まってきたことが感じられる。

学習の基礎基本においても安定した力が育ってきている。

その1 本校の教育の土台「かがやきづくり運動（かがやき賞）」を生かす

学校教育目標「希望に向かい凜と歩む子」、重点目標「学び合い高め合う子」をめざし、本校は教育の土台として、「かがやきづくり運動（かがやき賞）」を継続して行っている。学習面においても、子どもたちの光る姿やがんばりを積極的に見取り、子どもたちの自己肯定感を育み、学力向上にとって、重要な「学習への意欲」を高めていく。

さらに、授業での発言や考えのよさを具体的に認めていき、自分の考えを分かりやすく、説得力をもって伝える方法や、考えのまとめ方を理解させていき、学力の向上につなげる。

その2 授業・校内研修の充実

学力向上に欠かせないのは、日々の授業の充実である。授業の充実こそが、真の学力向上につながるものと信じ、全職員が一丸となって授業の充実・改善にあたる。

◎子どもたちが目を輝かせて、夢中になって学ぶ学習問題の設定

- ・学ぶ楽しさを実感できる、『夢中になって学ぶ学習問題』の設定と、他とかわり合い、高め合う授業の構想。
- ・確かな教材研究（子どもの思考に沿った単元構想）による導入の工夫
- ・子どもが追究したい学習問題が生まれる仕掛けや学習問題の腹案の設定
- ・学習問題を柔軟にとらえ、子どもの出方に合わせた対応

◎他と交流する中で自己の考えを深めたり高めたりする「学び合い」の実現

- ・ワークシートの工夫、教具の工夫、考える時間の確保による一人学びの充実
- ・追究に十分な時間を配分する（調べる・考える・話し合う・やってみる）
- ・発展的な机間指導・グループ（ペア）学習を取り入れた学習の活性化
- ・適切で、子どもたちの思考に沿った教師の出番の設定

（重点目標）
学び合い高め合う子

(重
点
目
標)
学
び
合
い
高
め
合
う
子

- ◎確かな学力としての、学ぶ意欲や関心が高まり、基礎基本を確実に定着できる授業
- ・付きたい力を明確化して、子どもの思考に沿った単元構想の作成
- ・まとめの時間の確保(結論を出す・確かめる・板書する)
- ・子どもの思考が整理される板書、教師の意図が見える板書



本校で大事にしていきたいのは、子どもたちが授業にのめり込んで精一杯考え、生き生きと自分の考えや意見を表出する授業であり、子どもたちが、友達と積極的に関わりながら「学び合い、高め合っていく」ことをめざして研修を深めていく。

その3 教師と児童による「めざす授業像」の設定と振り返り

「めざす授業像」として、各学級で、教師と児童がどのような授業をつくり上げていくのか話し合い、目標とする授業の姿を設定する。

授業の中で、授業像につながるよい表れを価値付け、称揚し、ステージの終了毎に各学級で目指す授業像の達成状況について振り返り、授業の改善につなげていく。

その4 金じろうタイムの活用 ～文章表現力の育成～

「金じろうタイム」として、朝の時間に、文章を書く目的や根拠をはっきりとさせ、目的や根拠に即した表現ができるように指導していく。文章を書くことの楽しさや必要性を感じ取らせながら、表現豊かな文章、文脈が整った文章を書く力や、文章の表記を正確に行う力を高める。日頃の日記指導や作文指導でも根気強く指導を行う。



その5 読書活動の充実

学力向上に欠かせない「読む力」を高める上でも読書活動は重要である。本校でもさらに読書の質・量ともに充実させていく。

具体的には、「朝読書の充実および読書の確実な習慣化」「朝の読書ボランティアによる読み聞かせ活動の充実」「図書担当や図書委員会等による、読書への意欲づけや読書の楽しさにいざなう活動」を行い、それぞれを活性化させていく。

その6 本校独自の「チャレンジテスト」の活用

7月と12月、3月に、児童の定着状況を見極めるために本校独自の「チャレンジテスト」を作成、実施し、児童個々及び学級・学年全体の定着度を把握する。(チャレンジテストの問題には「金じろうタイム」で取り組んだ内容も反映させる。)結果は、個別の学習メニューや、補習授業につなげていく。

今後も、子どもたちの基礎基本の力や、思考力、応用力を高めることができるよう、子どもたちが自ら意欲をもって学び合い、高め合う授業をめざしたい。日々の授業の充実のために、校内研修や教材研究を地道に行い、すべての教師が充実した授業を行う、「学びの城北小」をめざして、今後も学校体制で努力を続けていきたい。

掛川市立第一小学校

第5章 我が校のものがたり

学校教育目標 花いっぱい 笑顔いっぱい 活気いっぱい

(やさしい言葉の花) (できた、わかったの笑顔) (みんなで頑張る活気)

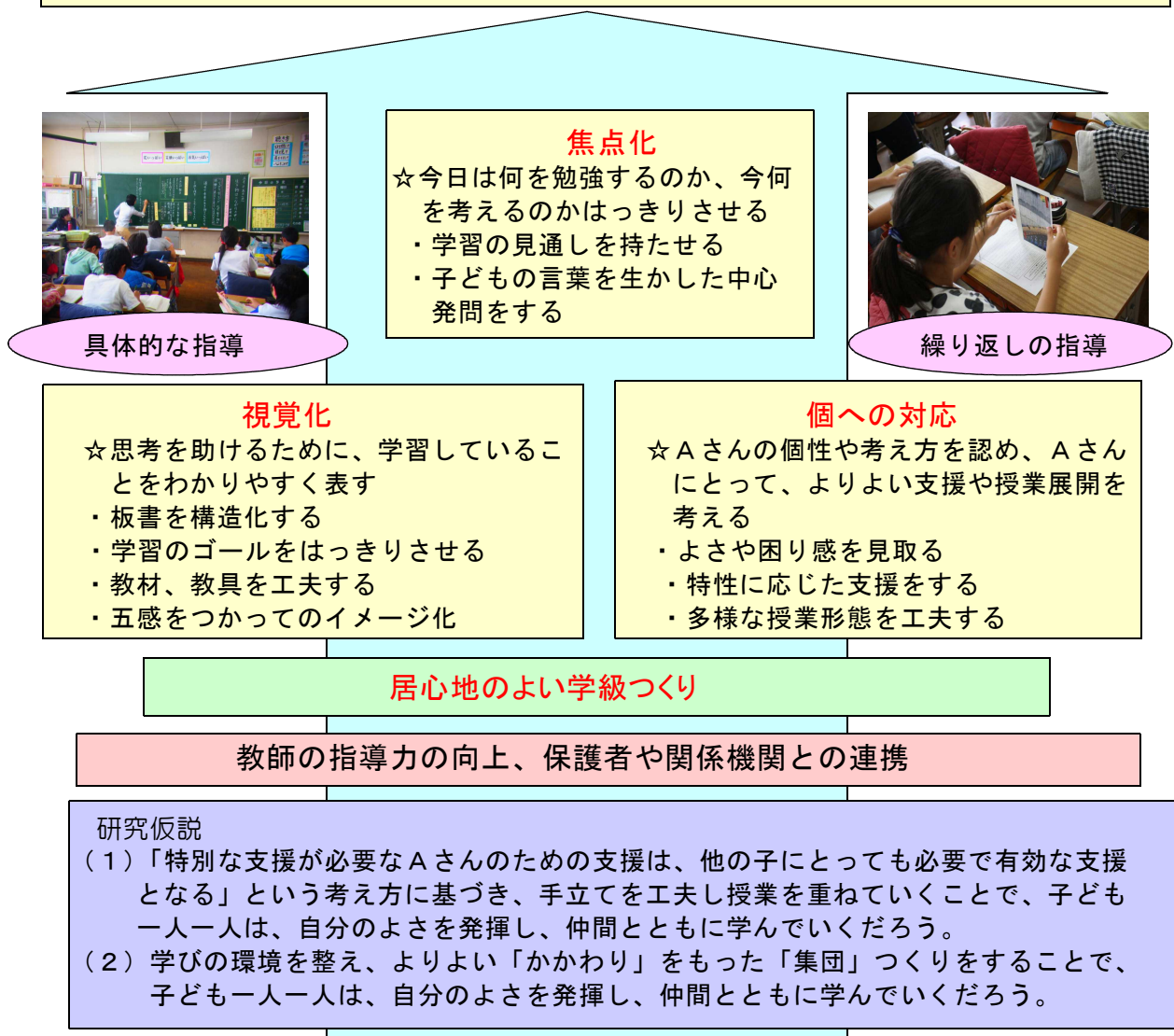
研修主題 自分のよさを発揮し ともに学ぶ子の育成

～学びのユニバーサルデザインによる授業改善～

掛一小で大切にしている指導方針

- 子どもを変えるのは「日々の授業」(1時間の授業を大切にしている教師)
- 子どもを変えるのは「使命感と情熱をもち一歩前進する教師」
- 子どもを変えるのは「子どもを観察し(見続ける、理解し続ける)、認める教師」
- 子どもを変えるのは「具体的な指導と繰り返しの指導」
- 子どもを変えるのは「学校経営、学年経営、学級経営のつながり」(学年力)

学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業改善の手立て



学力向上重点項目

○授業力の向上（できた、わかったの笑顔いっぱいの授業）

★日々の授業（1時間の授業）を大切にす。

（居心地のいい学級・授業づくりのための「教師の心得」を常に意識・実行する。

★学びのユニバーサルデザインによる授業改善（視覚化、焦点化、個への対応）を進める。

★生徒指導（一日の生活づくり、10この約束）、学習の約束（学習に集中するために）の指導

★居心地のよい環境づくり（挨拶・言葉の指導、教室環境づくり、よりよい集団づくり）

★家庭学習（「力がつく笑顔いっぱいの家庭学習」の浸透・実行、家庭における読書活動の充実）

★毎週の学年会（学年研修）の実施、学年主任による評価（共通理解より共通実践を大切に。）

45分の授業における学びのユニバーサルデザイン

○授業の前に

☆児童の実態をつかむ・教材を分析する。

☆教師の願い（ねらい）を明確にし、単元を構想する。

○授業の中で（「教師の心得より」）

☆発問や指示は表情豊かに「短・単・端」（短く・単純・端的）に。

☆ユーモア（笑顔）と心地よい緊張（静寂）の場面をつくろう！

☆認めよう！大いにほめよう！そして広めよう！

○焦点化

例 写真をもとに気付いたことを出し合い疑問を共有する。

例 付箋のたくさん張られた場所から考えを出し、中心発問につなげる。

例 「形当てゲーム」を通し、単元全体の見通しを持つ。

例 学習問題から問いを絞る。

○視覚化

例 絵や写真、大事な言葉をきちんと考えた板書計画。

例 授業案に板書計画を立てて臨む。（授業のゴール意識）

例 会話文を色分けして提示したり順番に並べたりして気持ちの変化を読み取りやすくする。

例 具体的な操作、動作化で思考を深める。

○個への対応

例 具体物、半具体物を使って指導する。

例 ペアで説明し合う。グループで意見交換する。

例 文字の大きさや字数、挿絵、吹き出しを工夫したワークシート。

例 一人一人の興味に基づいた課題設定や自分自身を振り返るための時間を確保する。

時間	学習の流れ
5	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">学習課題の提示</div> <p>★開始と終了の時刻を守る ★学習課題を赤枠で囲む</p>
	<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">個人追究</div> <p>★視覚化の視点で学んでいることがわかる板書に。 ★ノート指導で個に対応</p>
20	<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">考えの交流</div> <p>★作業や操作、具体物を取り入れる</p>
	<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">まとめ</div> <p>★言語活動を取り入れる ★ペア学習で説明し合う ★グループで意見交換することで、疑問を解決したり理解を深めたりする</p>
35	
45	

掛川市立第二小学校

第5章 我が校のものがたり

1 校内研修の充実

- ・ 研究主題：「言語活動を核とした授業づくり」
- ・ 研究仮説：国語科の授業において、「読むこと」の領域の「言語活動」を充実させ、授業展開の工夫をし、教師の発問や指示を精選していけば、どの子ども「確かな学力」を身につけることができるであろう。
- ・ ねらいと一体となった言語活動を充実させるために、指導計画「掛二小モデル」を立て、授業に活かす。
- ・ どの子にも確かな学力をつけるために、45分間の授業展開を工夫する。
- ・ 一人1回指導案を書き、授業公開を行うことで授業力をつける。
- ・ 単元途中に、「付いた力」を検証する。

2 掛二小授業実践項目の徹底

- ① 特別支援を基盤にした授業をしよう。
- ② 教具を活用しよう。
- ③ 評価の計画をもとう。
- ④ 板書計画をもとう。
- ⑤ チャイムで授業を始めよう。
- ⑥ 学習課題（学習問題）は赤、まとめは青で囲もう。
- ⑦ 子ども同士が関わり合う場を設定しよう。
- ⑧ 聴く・話すのルールを徹底しよう。
- ⑨ 発表している子どもの目を見て聞こう。
- ⑩ 授業の中で、子どもの良さを見取り、子どもに返していこう。

3 少人数指導

- ・ 2年生、3年生、4年生、5年生、6年生を対象に算数授業において2C3T、3C4Tの少人数指導を行う。
- ・ 習熟度別クラス編成を基本として、単元により、編成を見直す。
- ・ 担任と級外職員で教材研究を行うことで、児童の興味関心を引く教材や課題を工夫したり、体験的な活動等、五感に訴える学習を展開したりして、一人ひとりの学ぶ意欲を高め、実感を伴った理解を深める。
- ・ 児童一人一人の学ぶ過程を重視し、やり遂げた達成感や充実感を味わわせ、より高い目標に向けて努力しようとする態度を育てる。

4 名文・詩文の暗唱

- ・ 多くの名文、詩文に触れ、声に出して読む楽しさを感じ、語彙や表現方法を身に付ける。
- ・ 掛二小暗唱カードに沿って練習させ、教師がチェックし、賞揚する。
- ・ ステージごとに2～3作品を決め、暗唱させる。

ステージ	暗唱させたい名文・詩文
スマイル	はる、枕草子
チャレンジ	いるか、寿限無
フレンドリー	かっぱ、わたしと小鳥とすずと、竹取物語
パワーアップ	百人一首5首、早口ことばのうた、
ハートフル	おれはかまきり、平家物語、雨ニモマケズ

5 家庭学習の工夫

学年	時間	主な学習内容	保護者の支援
低学年	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・本読み ・ひらがな・カタカナ・漢字の書き取り ・計算練習 ・日記、作文など ・読書 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ児童のそばに寄り添い、相談にのったり、できたことを認めたりする。 ・間違いはその場で正しく直させる。
中学年	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・本読み。読書 ・漢字・ローマ字の書き取り ・計算練習 ・日記、作文など 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の見届けをする。 ・間違いは正しく直すようにアドバイスする。
高学年	45分	<ul style="list-style-type: none"> ・本読み、読書 ・漢字の書き取り ・計算練習 ・意味調べ、調べ学習など ・日記、作文など 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の見届けをする。

6 読書指導

- ・ 読書目標冊数を設定し、読書量を増やす。
1・2年…150冊、3・4年…100冊、5・6年…50冊
- ・ 学年のおすすめ本リストに紹介されている本を10冊以上読み、読書の幅を広げる。
- ・ 毎朝8:00～8:10は読書タイムとして、静かに本と向き合う。(火曜日は除く)
- ・ 保護者と共に、家庭での読書「家読」をすすめる。

7 朝テスト

- ・ 毎週火曜日8:00～8:10の朝活動の時間に、国語・算数のテストを実施する。
- ・ 学級担任が採点し、合否を判定する。(判定ラインは学年で相談する。)
- ・ 不合格者は水曜日のロング昼休みに再テスト等で補習を行い、学習内容の定着を図り、学力を向上させる。

8 掛二つ子チャレンジテスト

- ・ 年3回(7月,12月,2月)国語テスト、算数テストを行い、基礎・基本を定着させる。
- ・ 国語テストは、漢字、文法などの基礎・基本の問題。
- ・ 算数テストは、計算、図形等の基礎・基本の問題。
- ・ 50題程度を基本として、学年ごとに担任が問題を作成する。
- ・ 合格ラインは9割正答を基本とし、補習学習の時間等を使い、合格するまで指導する。

9 補修学習

- ・ 毎週水曜日、給食後のロング昼休みの時間を補修学習の時間とする。
- ・ 朝テストやチャレンジテストの再テスト、家庭学習の補習など、補修が必要と認める児童に対して行い、基礎学力向上に努める。

掛川市立中央小学校

第5章 我が校のものがたり

◆研修テーマに沿った授業づくり

昨年度の教員へのアンケートと学力調査の結果を基に、中央小の子どもたちの強化ポイントを「学ぶ意欲」と「表現力」と定めた。

今年度は、『学ぶ意欲をもち、自分の言葉で表現する子』を研修テーマに、「学ぶ意欲」と「表現力」に視点を絞り、県教委の「授業改善の視点」を意識しながら日々の授業づくりを行っている。

手立て	具体的な内容例 (事前研修・事後研修での視点例)
手立て I 子どもたちの 学ぶ意欲を高める手立て	○学ぶ意欲を高める学習問題 ・学習問題を生む手立てはどうだったか？ (子どもたちの思考の「ずれ」や「疑問」を生む手立て) ・学習問題は子どもたちが主体的に追究したいと思うものだったか？ ・導入～学習問題の流れは、子どもたちの思考に沿ったものだったか？ ○学ぶ意欲を高める追究場面の手立て ・子どもたちが意欲的に活動できる授業展開だったか？ (例：個人→グループ→全体) ・子どもたちの意欲が高まる教材・教具等の工夫だったか？ ・「どの子できる」「どの子もわかる」といった授業のユニバーサルデザインを意識し、子どもが意欲的に活動できる支援だったか？
手立て II 子どもたちの 表現力を向上させる手立て	○関わり合い考えを深める手立て ・子どもたちが関わり合う場の設定はどうだったか？ (ペア・グループ・フリー・考えが似ている、違う等) ・子どもたちが自分の思いや考えを伝え合う場として有効なものだったか？ ・関わり合いは、子どもたちの考えを深めるものだったか？ ・関わり合いは、教師の意図していたものだったか？ (関わり合いの目的は明確か？) ○思いや考えを自分の言葉で表現する手立て ・子どもたちの表現力 (自分の思いを表現する力) 向上につながる手立てだったか？ (自分の思いを書く・自分の思いを話す、伝える) ・子どもたちの表現力が向上する指導がされていたか？

※日頃の授業から、この2つの手立てを意識した授業づくりをする。

◆「3BIG」と「あったかアクション」の姿の育成

中央小では、学校生活の中で願う子どもの現れとして、「3BIG」と「あったかアクション」という言葉で子どもたちと共に共通理解している。また、よりよい発表のしかたを表にまとめ、ノートに貼らせ活用している。

思いを受け止める 分かりやすく伝える 意欲的に活動する			思いやりのある行動
"BIG EYES" 	"BIG VOICE" 	"BIG HEART" 	"あったかアクション" 
★ わかるまで	★ わかりやすく	★ やる気いっぱい!	
5 反応を返しながら	5 理由をつけて	H ぼんぼん発表!	
4 最後まで	4 はっきり最後まで	E ねえねえ、教えて!	
3 相手の方を見て	3 みんなに聞こえる声で	A どんどんやろう!	
2 正しい姿勢で	2 みんなの方を向いて	R じっくりやろう!	
1 手に何も持たない	1 「はい」と返事をして	T さあ、さよう!	

◆表現力向上プログラム

特に、書く表現力を向上させる手立てとして、発達段階を意識しながら活用している。国語科のみならず、各教科等で自分の考えを書いたり、分かったことや振り返りを自分の言葉で書く時間を設け、表現力の向上を目指している。

中央小学校 表現力向上プログラム					掛川市立中央小学校	
学ぶ意欲を高める手立て	内容	内容	低	中	高	国語科学習指導要領との関わり
	言葉で認める	自分の経験や考えを書く				低 書:目標
	目に見える形で認める (シール・はんこ・評価など)	順序よく書く				低 書:イ構成
	ノートに筆を入れる (丸・コメントなど)	「 」 空に入れて書く				低 伝:イ(オ)表記
	全員が手を挙げられる発問を取り入れる	擬音語・擬態語を用いて書く				低 伝:ウ(ク)文字
	生活動を精選する	具体的・抽象的に書く				書:イ構成
	教材・教具を工夫する (具体物・ワークシートなど)	常体と敬体で書く				書:エ記述
	授業の流れが分かる板書を工夫する	文末表現を工夫して書く (断定・推量・疑問など)				中 書:オ推論
	子ども同士で認め合う場を設ける	5W1Hを意識して書く				伝:イ(キ)文及び文章の構成
		指示語を用いて書く				伝:イ(ク)文及び文章の構成
表現力を向上させる手立て		頭括弧・尾括弧・双括弧で書く				書:イ構成
		事実と感想、意見を区別して書く				高 書:ウ記述
		表現を工夫して書く (比喩・反復・省略・倒置・対句など)				伝:イ(ケ)表現の工夫
		原稿用紙に書く				
		使う言葉を指定して書く				全
		文字数を制限して書く				
		時間を制限して書く				
		接続語を用いて書く				全
		授業の振り返りを書く (分かったこと・学んだこと・感想・振り返りなど)				

※国語科の年間計画を作成する中で、どの項目をどの単元で重点的に指導するか考える。
※国語科に限らず、各教科等で指導できるものは、どんどん取り入れていく。

◆基礎学力定着プラン

年度始めに、各学年で漢字を読む力・書く力、計算する力を高めていくための指導方法（授業の進め方・ドリルの使い方・宿題の内容等）を計画し実践している。

ア 漢字を読む力・書く力

学年	漢字を読む力・書く力を高めていくための指導方法の工夫
1年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習に書き取りを取り入れる。 毎週書き取りの手本を配り、正しく丁寧に書く習慣を付ける。 書き取りは、その日のページに漢字、ふりがなは次のページに書くようにさせる。 手本と同じ漢字テストを毎週行い、基準に到達するまで繰り返す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習に書き取り、漢字ドリル、形成プリントのいずれかを取り入れる。 テスト前にテストと同じ用紙を配布し、事前に練習の期間を確保する。 漢字テストを定期的に行い、定着を図る。 書き取りノートを丁寧に点検し、まちがった漢字は直させる。 ステージテストを全員が合格するまで繰り返し練習させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、漢字ノート（84字）へ漢字ドリルの漢字を1ページずつ書く。 書き方は、始めにふりがなと送りかなを書いてから漢字ドリルを見ないで書き込んでいく。 週1回、その週に練習した漢字の小テストをする。（10点満点） テストは漢字ノートに貼り、学習の足跡として積み重ねていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習に漢字の練習を位置付け、漢字の定着を図る。 定期的に漢字テストを行い、漢字の定着度を確認する。定着していない漢字は反復練習させ、合格（9割以上）するまで繰り返し行う。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習に漢字の練習を位置付け、漢字の定着を図る。 定期的に漢字テストを行い、定着を確かめる。 ステージテストの内容に合わせて基礎学力タイムと家庭学習に取り組む。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ドリルを繰り返し練習し、練習したのものについて小テストを実施。9割以上を合格として再テストする。 漢字練習は「ていねいに、正しく書く」ように日々指導する。

イ 計算する力

学年	計算する力を高めていくための指導方法の工夫
1年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、家庭学習に計算カードを取り入れる。 たしざん名人、ひきざん名人の認定制度を取り入れる。 家の人に時間を計っていただく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習に計算練習（ドリル、プリント等）を取り入れる。 かけ算九九カードを毎日の家庭学習に取り入れる。（後期） ステージテストを全員が合格するまで繰り返し練習させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルの内容（問題文・式・計算方法など）を計算ドリルノートに書き込んでから問題を解いていく。毎日、1ページずつ進めていく。 計算ドリル1ページを3回程度繰り返し学習するようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習に計算練習を位置付け、計算力の定着を図る。 ステージテストを行い、学習の定着度を確認する。定着度の低い子は休み時間やステップアップタイムの時間に個別指導を行う。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習に計算練習を位置付け、計算力の定着を図る。 計算練習はドリルに書きこむのではなく、計算ノートやプリントを使い、繰り返し行う。 定期的に復習プリントで定着を確かめる。 ステージテストの内容に合わせて基礎学力タイムと家庭学習に取り組む。 ステップアップタイムを利用して、定着度が低い子への個別支援を行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルを繰り返し学習させる。（毎日の宿題） 単元ごとの小テストを実施。9割以上を合格として再テストを行う。 5年生で学習した分数のたし算、ひき算の復習から、分数のかけ算、わり算、量と単位、単位の換算の確かな力をつける。

◆10ways For Better Lessons

教師が日々の授業づくりで意識する10の内容を共通理解している。

◆校内研修の充実

- 学力調査採点研修
実際に学力調査の問題を採点し、各学年の授業や日々の指導に生かしている。
- 外部講師による国語科研修
中央小の子どもたちが国語を苦手としていることが前年度の学力調査の結果から明確になったため、今年度は、外部の講師を招聘し、国語科の研修会を行う予定である。
- レポート研修
授業公開だけでなく、日々の教員の授業づくりや指導方法などノウハウを、レポート等にまとめて情報交換を行う研修を設定している。
- 実技研修
普段なかなか研修できない実技系教科（音楽や図工、家庭科等）の研修を設定している。

◇基礎学力タイム

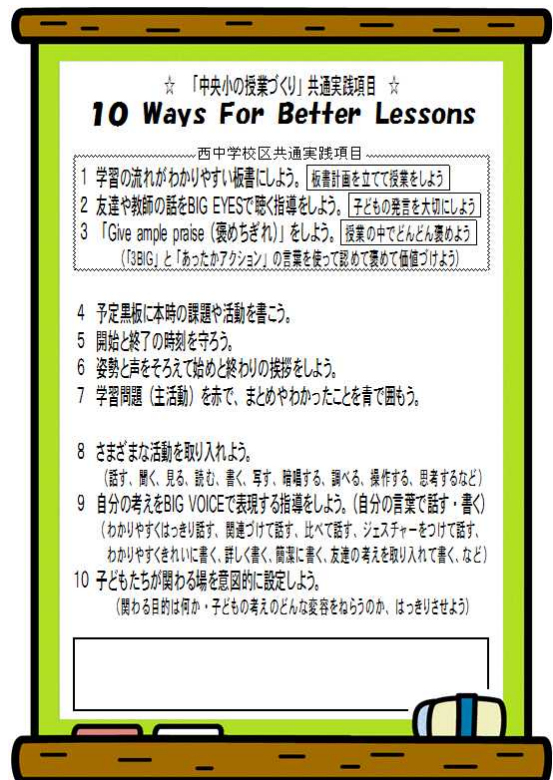
夏休み前、冬休み前に、朝活動の時間を活用して、基礎学力の定着を図るドリルタイムに設定している。

◇ステップアップタイム

月に1回、補習の時間を設けている。学習の定着が図れていない児童や補習を希望する児童を対象に行っている。

◇家庭学習の手引き

家庭学習（宿題＋自主勉強）のモデルとして各家庭に配付し、周知を図っている。



掛川市立曾我小学校

第5章 我が校のものがたり

本校では、昨年度までの成果と課題を明確にし、子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、次のような取り組みを実践していきます。

1 ドリル学習

- (1) 毎週木曜日の朝活動（10分）で漢字テストを実施。
 - ・主に前学年までの復習。事前に答えを配布して練習してから取り組む。
 - ・再テストは、学年の実態に応じて行う。
- (2) 毎週金曜日の朝活動（10分）で計算練習を実施。
 - ・前学年までの復習や現在学習している単元の補習的な位置づけで取り組む。

2 たしかめテスト ※全3回実施（定着度調査を含む）

1回目（7/15）

- ・7月までのまとめのテスト。国語は、前学年までの漢字中心のテスト
- ・合格になるまで粘り強く指導する。
- ・不合格者は、サマースクールで指導予定。

2回目（11/14）

- ・11月までのまとめのテスト。
- ・算数は、主に前年度の定着度調査の内容をテストに盛り込む
- ・国語は、11月までの漢字中心のテスト

3回目（1/9）

- ・結果によってウインタースクールで指導

3 少人数・習熟度別指導

- ・人数が多い5年生で実施予定。
- ・必要な単元において、習熟度別コースを設ける。

4 放課後学習支援

「ウインタースクール」（1/22、29、2/12、26）

- ・1月の定着度調査の結果を踏まえ、定着が図られていない児童を、担任や級外が指導する。

5 長期休業中の学習支援活動

「サマースクール」（7/28、29、30）を開く。

- ・7月の「たしかめテスト」の結果などを踏まえ、定着が図られていない児童の補習学習を実施。
- ・担任や級外が指導する。

6 家庭学習支援

「家庭学習のすすめ」を配布。

（内容）

- ・めざす家庭学習時間を「学年×10+10分」とする。
- ・主な学習内容、保護者の支援について、低・中・高学年にわけて提示。

7 読書活動の充実

（1）朝活動（8:05～8:15）

①朝読書の実施。（月～水）

②ボランティアグループ「ダンボ」による読み聞かせを実施。（月1回程度）

③教師による読み聞かせの実施。（1～2か月に1回程度）

④読書バイキングの実施。（年1回、教師による読み聞かせ。子どもたちが本を選択）

（2）読書の推進

①数値目標 年間100冊

②各学年必読図書（10冊）を設定し、読書の質を高める。

- ・必読図書10冊すべて読んだ子は「読書スペシャリスト」に認定。
- ・賞状を授与し、図書コーナーに紹介の写真を掲示。

③読書カードで実績を積み重ねていく。

④児童、職員のお薦め本を紹介する。

- (3) 家庭読書の推進
 ①学習時間の中に読書を含める。
 ②ノーメディア週間(秋)を設け、親子読書を勧める。
 ③学校図書便りで読書活動の様子、お薦め本を紹介し、家庭読書を啓発していく。

8 研修の充実

- 子どもが、授業の終末段階で「わかった」「できた」と納得したり、理解したりすることができるように、研修及び授業改善に努める。
- (1) 算数科を窓口教科とする。
 (2) 学級担任及び教務主任(算数科に関わる教師)が公開授業を行い、事後研修で協議をして研究を深める。
 (3) 全員で事前研修を行う。
 (4) 「つかむ」「しかける」「たしかめる」を合い言葉に研修を進める。
 具体的には、1時間の授業の中でも導入を「つかむ」、展開を「しかける」、終末を「たしかめる」と位置づけ授業に臨む。
 (5) 研修につながりを持たせるために、指導案には各自の「提案」(わかった・できたを実感させるための手立て)の項目を設ける。その提案に沿った事後研修をする。

9 授業改善

- めざす子どもの姿の実現や私たちに求められていることを含めて、本年度は下記のことを中心に授業改善を図る。
- (1) 子どもたちに力をつけること(授業理解を深める手立てを考える)
 (2) 学習指導要領で求められている力を再確認し、ねらいを設定すること
 (3) 授業展開を見直し、終末段階で練習までいけるよう効率化を図ること

10 言語活動の充実

- (1) 朝の会で『話す・聞くスキル』を音読する。
 (2) 国語等の時間に教科書を音読する時間を1日1教科以上設定するなど、音読を工夫する。
 (3) 音読コンテスト週間を設定する(詩や物語を音読・練習→テスト)
 家庭を巻き込んで練習をさせたい。
 (4) 言語活動の例にもあるように音読劇や音読発表会を行い、音読の力を高める。

11 調査問題の分析

- ・全職員で学力調査の問題を採点する。
- ・個々の特徴をつかみ、課題を洗い出す。
- ・課題に対する対策を講じ、日々の授業に生かす。

12 その他

- (1) 目指す授業像
 ・年度始めに子どもたちと話し合い、目指す授業像を創る。
 ・ステージ毎、簡単に振り返り、次ステージに生かす。
- (2) 見せ合い授業(5月に予定)
 ・上の学年を見る。
 ・真似したい・すごい・頑張りたいと思うような感想を持たせたい。
- (3) 学習3
 ・以下の3点において、学習態度の基礎基本として教室前面に掲示をし、子どもに指導する。
 ①「学習用具をそろえる」②「聴き手を見て話す」③「話し手を見て聴く」
 ・本年度は、学習3に進んで取り組む子(90%)をめざす。
- (4) 掛西学園の取組
 ①学習の流れがわかりやすい板書
 ・学習のふり返りがわかる板書
 ②園児・児童・生徒の発言を大切に聞く
 ・目を見る、思いを受け止める、最後まで聞く)
 ③主活動、授業の中でどんどんほめる

掛川市立桜木小学校

第5章 我が校のものがたり

1 今年度の全国学習・学力状況調査の結果

	正答率（50%以下）の項目数		無解答率（10%以上）の項目数	
	平成25年度	平成26年度	平成25年度	平成26年度
国語A	6	2 故事成語	1 1	0
国語B	6	5 条件付き短作文 条件に合わせた 100字以内の作文	6	1 条件に合わせた 100字以内の作文
算数A	0	0	1	0
算数B	8	4 答えの求め方を言葉や式を使って書く。	2	1 答えの求め方を言葉や式を使って書く。 (回答も含む)

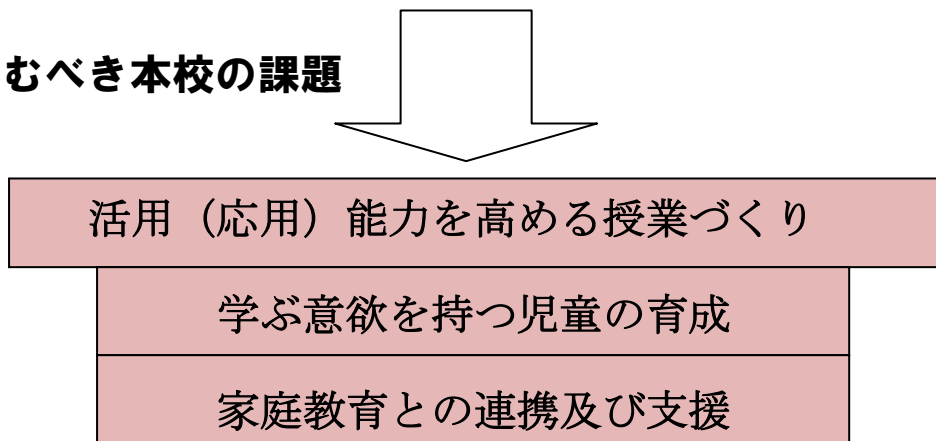
○正答率50%以下の項目が、国・算のABともに減少し、無解答率も大きく減少。

問題の傾向をつかみ、解答までたどり着く児童が大幅に増えた。

○自分の考えを自分の言葉で表現し、「伝え・聴き合う」学び合いを通して、粘り強く学習に取り組む姿勢が育ってきた。

●国語の「読む力」「書く力」、算数の問題文を正確に「読み取る力」や活用問題に見られるような理由や考えを数字や式や言葉を使って「書く」ことが課題。

2 取り組むべき本校の課題



活用能力のある子
学ぶ意欲のある子

授業づくり

付きたい力を明確にした授業づくり

国語の授業改善

- ・「書く」活動を必ず取り入れる。
また、文字数やキーポイントになる言葉を入れるなど条件付きの文を作ることで、文の構成力を高める。
- ・自分の考えを言い合う場（ペア・小グループ）を多くする。

算数の授業改善

- ・自分の考えを、言葉や式、図などで書き表し、説明する場を大切に
した授業を構成する。
- ・表やグラフに必要な言葉を記入したり、大切な言葉に線を引いたりして、
解決に至る手立てを大切にする。

意欲づくり

子どもへの支援

- ・ノート指導により、よりよい表現の仕方について助言する。
- ・国語辞典の活用を継続する。
- ・一人一人の学習意欲がより継続できる、効果的な少人数授業を行う。

スキル学習

- ・のびのびテスト（定期的な学習定着テスト）を実施し、ステージごとに学習してきた基礎的な内容の定着を図る。
- ・毎朝 15 分読書を実施し、集中力を高めるとともに語彙力を一層増やすことで、学習したことの活用能力の幅を広げる。

家庭との連携及びはたらきかけ【道徳教育の推進】

- ・家庭学習の習慣化を促す、「桜が丘学園家庭学習の手引き」の活用を促し、家庭でも学習を進める環境を整える。
- ・家族とのふれあいの時間をより大切にすることを保護者にも働きかけ、温かな心情とやりぬく強い心情面の育成を一層大切にする。
- ・規則正しい家庭生活の大切さを伝え、家族で話し合う。

掛川市立和田岡小学校

第5章 我が校のものがたり

1 子どもの学習への意識が変わった！



「宿題プリント」をやって、勉強が分かるようになった！力がついた！
勉強で、分からないことが分かるようになりたい！

- ・全国学力・学習状況調査の基礎力（国A・算A）は、正答率がそれぞれ72%・79%に向上した。また、無解答率は0%に改善された。
- ・基礎学力が少しずつ向上したことにより、集中して授業に取り組むようになり、話し合い活動の充実や自発的に思考し、活動する姿が増えてきた。
- ・学力の中間層の子が、「もっとわかりたい。」「できるようにになりたい。」「全問正解をしたい。」など、自分を高めようとする姿が見られるようになった。
- ・できない問題があったとき、自分から進んで教師に聞きに来たり、休み時間や長期休暇中に進んで個別学習に取り組んだり、前向きに学習する姿につながった。

（学習アンケートより：6年）数値：「すごく思う」「思う」好ましい回答の割合

宿 題 プ リ ン ト	「宿題プリント」に一生懸命に取り組んだ。	95.2%
	「宿題プリント」をやって、勉強が分かるようになった。	90.5%
	「宿題プリント」をやって、力がついた。	95.2%
勉 強	勉強が分からないことが分かるようになりたい。	95.2%
	勉強が分かると楽しい。	90.5%
	前と比べ、勉強することが楽しくなった。	90.5%
	困ったときに教えてくれる先生がいる。	90.5%
勉強して分からないことがあったとき、どうするか。		
自分で解決 33.3% 先生に教えてもらう 42.9% 友だちに教えてもらう 42.9% 家の人に聞く 81.0%		
そのままにする0%		

- ・アンケート結果を見ると、学習（宿題を含む）に対する意識の高まりが大いに見られた。とくに、「分かるようになりたい。」「勉強が分かると楽しい。」は、「すごく思う」の回答が6割を超えたことは大きな成果だ。

2 保護者の学習への意識が変わった！



- ・保護者会等で、学校の学力向上への取組に、「ありがたい。もっとやって欲しい。」「親子で一緒に勉強するようになった。」「宿題を分かるまでやるようになった。」「桜が丘中へ行ってから、桜木小の子どもたちと競える学力をつけたい。」等の声をいただいたことも大きな成果だ。
- ・勉強して分からないことがあった時、8割の子が「家の人に聞く」と答えている。この結果から、学習においても家庭との連携・家庭への啓蒙のあり方

について、さらに工夫し実践していくことが子どもたちの学力向上につながると考える。



3 教師の授業改善の意識！日々の授業の充実へ！

授業改善の視点「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を意識した授業を研修主任を中心に進め、日々の授業の充実につなげている。

以下に、今後も継続したい効果的な取組をあげる。

(1) 求める学力を明確にした授業改善

「学力・学習状況調査の問題を活かした授業改善の工夫」

「ねらいの明確な1時間の授業づくり」

ア 日常の授業での条件指定（例：「文」という概念の定着に向けた指示）

・「4文で答えましょう。」「1文で答えましょう。」「1文読みをしましょう。」

イ 「知識」として定着を図ったうえで、「活用」をねらった授業展開

・国語…キーワードや型を押さえる。それを使って考えを書かせる。

「私は、～が分かりました。理由は～。自分と比べると～。」

・算数…考え方の型を教える。（キーワード穴埋めなど）

「まず、かける数を10倍します。だから、積を（ ）します。」

ウ 日常的にことわざや慣用句、四字熟語等を教え活用する。掲示する。

エ 中・高学年では、授業において国語辞典の日常的な活用を推進する。

(2) 基礎学力向上に向けた手立て

ア 朝の学習活動

・週2回、朝活動の時間を「基礎学力の時間」とする。個別支援が必要な児童は、その子にあった学年に立ち返り練習する。上位層の児童には、追加問題を提示する。

イ 家庭学習の見直しと継続的な指導

・市販プリントを活用し、級外職員がすぐに採点し本人に返却することで、家庭学習への子どもの意識改革を図った。

・家庭をまきこんだ家庭学習、「自主学習ノートづくり」を進める。

・条件指定（160字以上200字以内。2段落構成など）をした日記・作文指導など、求める学力を見据えた指導を行った。

ウ ふり返りテストの活用

・個の伸び具合を伝えることで、努力した姿を価値づけた。

・保護者へ結果・分析・考察等を具体的に知らせることで、家庭学習も含め、保護者をまきこんだ「学力向上」の取り組みを推進した。

(3) 子どもの学びを支える環境づくり

ア 学びのユニバーサルデザイン「学習の構えづくり」、焦点化、視覚化等

イ 保護者との連携

・つまずきのある子どもの場合、保護者と面談を定期的に行い、家庭でも学校でもできる問題を段階的に指導し、指導の方法を共有した。

ウ 読書の質の向上

・必読図書20冊を設定し、読書の量・質を大切にされた指導。

エ 個別学習の推進

・eラインズ（パソコン学習支援ソフト）を使った個別学習。

継続あるのみ

掛川市立原谷小学校

第5章 我が校のものがたり

5つの羅針盤

第1の矢

～全職員の意識改革と組織的な動き～

- ☆国や県、市の学力向上の方針を全教員が押さえる。
- ☆NRT検査を小2から小5まで実施することで、問題意識を高める。
- ☆中学校区全体での学力向上に対する意識改革をする。
- ☆大学教授を招聘しての言語活動の研修会を開催する。

第2の矢

～魅力ある授業から力のつく授業への転換～

- ☆OJT：ベテランから若手へ指導技術を伝授する。
- ☆学習課題、学習のまとめ、ゴールとなる児童像を指導案に明記する。授業のまとめを書く時間を確保する。
- ☆解説、授業づくり規準・指針、アイデア集の熟読。
- ☆視覚に訴える板書、学びの足跡が見える板書。

第3の矢

～授業以外の時間の有効活用～

- ☆朝のスタディタイムにおいてまとめる活動を導入する。
- ☆長期休業前や休業中を利用し、学力層に応じた補充学習や発展学習を行う。

第4の矢

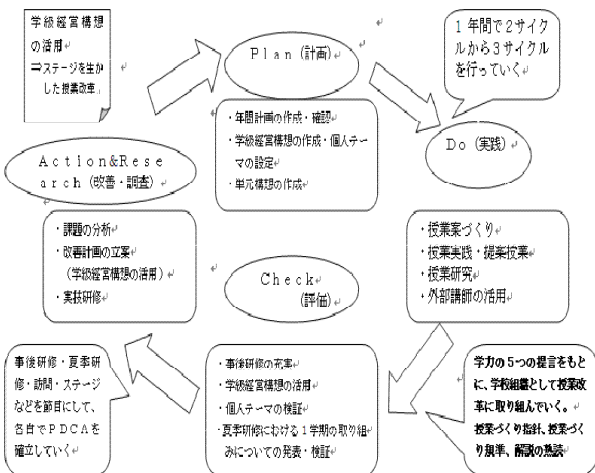
～家庭・地域を巻き込んだ学習習慣の向上～

- ☆『学びの手引き』『授業の10箇条』を作成する。
- ☆学級懇談会や個別面談において、学習方法や集中できる環境について依頼する。
- ☆家庭学習の必要性を啓発する。
- ☆質の高い読書指導やクラブ支援を実施する。

第5の矢

～取組に関する評価～

- ☆NRT検査と知能検査の相関図を分析・評価する。
- ☆児童評価、教師評価をもとに、全職員の変容や効果的な学習を考え、その都度改善を図る。
- ☆R-PDCAサイクルを実施、評価・改善する。
- ☆全クラスに伝え合いレベルアップ表を掲示し、児童の言語活動の評価をする。



原谷小学校 伝え合いレベルアップ

語りレベル こころざしをもち 共に高め合おう 聴くレベル

8. 相手の考えを言い伝えたりくめたりして話す 「○○さん、あなたの考えは...」「へー、...」 「もうちょっと詳しく話そうよ...」	8. 相手の発言のよさを自分の考えに受け入れながら聴く 「○○さんの意見を聞いてよかった」 「○○さんのように考えればわかりやすいな」
7. 友達の話を確認しながら話す 「～でよね」 「ここまでいいですか」	7. 相手の言いたいとは何かわかって聴く 「○○さんの言いたいことは～ということかな」 「～のよさ～ということだね」
6. 具体例を示しながら話す 「例えば...」「授業中のページを思い出してください」 「実例を見れば分かる。最後に考えを言えなさい」	6. 自分の考えと比べながら聴く 「ほくと同じだ」「ちょっと違う」「似てるな」
5. 友達の話につなげて、疑問や反対意見を話す 「○○さんに聞きたいんだけど～」 「○○さんの意見には反対です～」	5. 自分の考えをもって聴く 「私はこう考えだけど、○○さんはどうかな」
4. 友達の話につなげて、つげたり賛成意見を話す 「○○さんにつげさせて～」 「似てるな、みんなも～」	4. うなずいたり、つぶやいたり、反応しながら聴く 「うん、わかった」「なるほどね」「そうなんだ」
3. みんなの方を見て話す	3. 最後までだまって聴く
2. 教室全体に聞こえる声の大きさで話す	2. 話す人の方に体を向けて、目を見て聴く
1. 指名されたり「はい!」の返事。最後は「～です」	1. 手いたらずらせず、よい姿勢で聴く

名前

やさしく話す あたたかく聴く



原谷小まなびゲージョン

<国・県の施策>

- 学習指導要領
- 教育振興基本計画
- 21世紀型学力

<基本的な考え>

●基礎基本の知識や技能の定着と実生活への活用

- ・課題解決のR-PDCAサイクルを大切にする

<児童の学力の実態>

- ・中位、上位の児童の学力の伸び悩み。
- ・バブルチャートより、国語Aができて国語Bができない。
- ・国語の記述、算数の割合等苦手箇所がある。
- ・課題の意味をかみ砕き説明できない。

<人づくり構想掛川>

- ・夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成を目指す。

<学校教育目標>

かがやく 原谷の子

<重点目標>

こころざしをもち 共に高め合おう

<保護者・地域の願い>

- ・相手の気持ちがわかり、いやなことを言わない子
- ・コミュニケーションのとれる子
- ・やるべきことをやり、物事に対応できる芯の強い子

組織

研修

意識改革

- ・国語を核にした研修
- ・全職員で授業の分析・採点熟読
- ・解説の授業づくりの活用
- ・朝のスタディタイムの活用
- ・教育課程編成上の工夫（授業数）
- ・OJT：指導技術の伝授
- ・ミドルリーダーの内外派遣
- ・児童質問紙の分析結果の共有

授業改善

- ・学び合い、教え合う授業改善
- ・つけたしを指導案に明確に記す
- ・研究授業の評価・評価の工夫
- ・授業のユニバーサルデザイン（課題とまとめを明確にする）
- ・中位、上位の児童への発展問題学習
- ・ペア学習、課題別学習、ハズ学習
- ・学校図書館の活用（思考力・判断力・表現力を高める）

連携

家庭・地域・中学校区

- ・『学びの手引き』『授業の10箇条』作成 中学校区で協力
- ・個別面談において、NRT検査の提示、学習指導実施
- ・読書（朝・読み聞かせ）を中学校区共通指導項目に設定
- ・外部人材プロジェクトチーム（学園化構想の推進）
- ・学力層に応じた補充学習・発展学習・家庭での読書習慣
- ・長期休業中の職業調べ（キャリア教育）

言語環境の整備

わかりやすく話す 80% 読書貯金 低300さつ 80%
 心のこもったあいさつ 80% 中3000ページ 80%
 いやな言葉と言わない 80% 高5000ページ 80%
 家庭学習の仕方のノートの掲示 70% 道徳コーナー充実 100%

人間尊重を基盤にした教育

- ・人間関係づくりトレーニング
- ・思いやりのクローバー作戦
- ・望ましい人間関係を育む学級

内と外に開かれた信頼される学校

- ・学習習慣、学習環境の徹底
- ・かけがわ、道徳の推進（二宮金次郎の教えを広める）
- ・学校評議員会、PTA役員からの学校評価

掛川市立原田小学校

第5章 我が校のものがたり

1 本校がめざす「学力向上ものがたり」とは？

平成25年度全国学力学習状況調査の結果から
 〈国語〉

- ・「言語についての知識・理解・技能」について全国平均を上回っているが、「書く能力」「読む能力」は全国平均を下回っている。
- ・中下位層から下位層において平均を上回っているが、上位層は平均を下回っている。

〈算数〉

- ・「数と計算」の領域や「数学的な考え方」について全国平均を上回っているが、「図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」は全国平均を下回っている。
- ・上位層から中下位層は平均を上回っているが、下位層は平均を下回っている。

〈質問紙〉

「土曜日の午前は、何をして過ごすことが多いですか」、「自分で計画を立てて勉強をしている」、「学校の宿題をしている」、「普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」、「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」という質問事項に対して、肯定的な回答をしている児童は、学力の上位層であり、否定的な回答の場合は下位層であるという相関関係が顕著に表れた。

⇒主体的に行う学習習慣と学びの姿勢づくり、授業での指導目的に応じた話し合い活動の充実が課題である。

児童の実態に対して
 の職員の願い

- ・「～したい。」「～やりたい。」という意識を高めたい。
- ・自信をもたせる場を設定し、自尊感情を高めたい。
- ・個人のよさを発揮できるたくましさを育てたい。
- ・子どもが単元や教材、授業の中で見通す力をもたせたい。
- ・授業の中で、子ども同士のかかわりを増やしたい。
- ・家庭学習を充実させたい。(語い・計算・漢字・読書)
- ・自然豊かな地域を生かした教育を進めたい。
- ・少人数を生かした原田小ならではの教育活動を行いたい。

【原田小学校がめざす姿】

「たからもの」が育つ学校

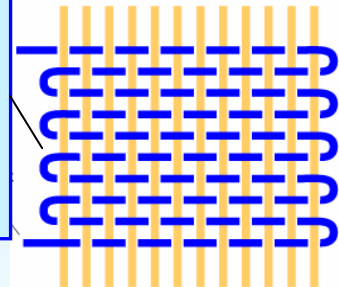
「子どものたから＝自尊感情と学ぶ力」 「教師のたから＝指導力」

そのために・・・

本校が従来取り組んできた「学び合う授業・わかる授業」の上に「できる授業・身に付く授業」を構築するために、教科指導を縦糸、授業改善を横糸に、「原田小学校の学力」という美しい布を織りあげていく。

これが「原田小の学力向上ものがたり」とであると考えます。

横糸＝授業改善



縦糸＝教科指導

2 本校の学力向上の具体的な取組

(1) 授業改善【横糸】

- ・単位時間及び単元を通して付けたい力を明確にした指導計画をもつ。【押さえる】
- ・児童が問題解決に向けて主体的に活動する場面を設定する。【仕掛ける】
- ・本時で付けたい力が付いたか、毎時間、子どもによる振り返りを行う。

(学習のまとめや活用の時間を大切に) 【確かめる】



ア 授業の中で、根拠を基に話し合う場面を設定し追求する力を育てる。

(ア) 研修主題「根拠をもって伝える子」を設定し、自分の考えに対するの根拠を明確にした話し合いを進める。

(イ) 相手に伝わる話し方を意識させる。⇒ **聞く話す段階評価表の活用** (原野谷中学校区学園化構想事業)

イ 単元を貫く言語活動を設定し、学びの着地点を児童と共有した授業づくりをする。

(ア) 言語活動を設定し、児童に目的意識をもたせた単元の構想をする。

(イ) 授業内容が分かる板書をする。

(ウ) 学びの振り返りを生かした評価をする。⇒ **学習課題は赤囲み、まとめは青囲み**

(エ) 本時で付けたい力が付いたか、子どもによる振り返りを行う。⇒ **学習のまとめや活用の時間の確保**



ウ 授業の目標を具体的にすることで、付けたい力を明確にする。

・学習指導要領と教材とを照らし合わせ、指導案の目標を具体的に記述し、目標、学習課題、評価の一体化を図る。

エ 国語の授業で並行読書を意図的に設け、読み取る力を育てる。

・教室内に、同じ作者や同じテーマの物語など、教材と関係する本を常設する。

オ 長文を読み、作者の意図を読み取る力を育成するために必要な漢字や語いなどの反復練習を日課に位置づけたり、長期休みに一人一人の実態に合わせた個別指導を行ったりして、基礎学力の向上を図る。

・週1回のドリルタイムを設定する。 ・夏休みに「夏休みチャレンジ学習」を実施する。



カ 読書の量から質への転換を図る。

(ア) 週1回の読み聞かせと週3回の読書時間を設定する。読書時間には必読図書も読むようにする。

(イ) 家庭学習に10分以上の読書時間を設定し、家庭読書の充実を図る。

(2) 教科指導【縦糸】

- ・各教科において学習指導要領に示された目標と内容を明確にする。【押さえる】
- ・付けたい力に沿って、問題解決や体験的な活動の工夫や言語活動の充実などを意識した子どもを中心とする授業作りに努める。【仕掛ける】
- ・学習内容の理解を確かめる場を設定し、学力の定着を図る。【確かめる】
- ・学習の場で教師が認め、価値付けを行い、自尊感情を高める。【高める】
- ・学びの実感をもたせ、さらに学ぶ意欲につなげる。【つなげる】

活用

各教科で付けたい力が付いているか他教科や他の領域、学校行事の中で確認する。

- ・たからものスピーチ
- ・大高山発表会 等

ア 校内研修体制を強化する。

(ア) 教科部会による研修を充実し、各教科で「学習指導要領で求められている学力」を洗い出し、付けたい力をどう指導していくつかの指導方法を明確にする。

(イ) 一人一授業公開により、授業技術の向上を図る。

イ 評価方法の見直しを図り、学力の定着を確認する。

(ア) 単元ごとのテストに全国学力学習状況調査の類似問題を加味する。

(イ) 朝の時間の「ドリルタイム」「朝読書」、年間5回の「とことんテスト」を継続する。

ウ 管理職と研修主任による授業巡回指導を行い、授業改善の日常化を図る。

エ 家庭生活を見直す。

(ア) 家庭学習の仕方の指導と見届けをする。

- ・家庭学習の仕方の指導と家庭学習につながる授業展開を工夫する。
- ・計画的な家庭学習ができるように指導する。

(イ) 家庭と連携した取組を行う。⇒ **「ふれあいデー」(毎月21日実施)の活用**

- ・家庭読書の充実や文化施設の利用を促進する。
- ・新聞やテレビのニュースにふれる機会を増やす。
- ・学習時間の確保やノーメディアデーの設定など家庭生活の見直しを図る。



掛川市立 西郷小学校

第5章 我が校のものがたり

1 本校の児童について

明るく素直、人なつっこい	明確な目標があればがんばる
困難なことを避ける	当たり前のことが定着しにくい
きまりを守る意識が低い	

2 教育の重点目標

「当たり前のことを大切にする」とは

本校で、子どもたちに求める姿は、「自分を伸ばすために、やるべきことをやる」ということである。何か特別なことや新しいことをするわけではない。今まで、言われてきた「元気で明るいあいさつをしよう」「よばれたら返事をしよう」「忘れ物をしない」などを、子どもたちに今一度ていねいに指導することを通して、子どもたちに「しなければいけないことをきちんと行う」意識をもたせていきたいと考える。「自分は、しなければいけないことがきちんとできる」—そのことが、子どもたち一人一人の自己肯定感の積み上げになり、ひいては、学力の向上の基盤となっていく。

3 学力向上の取り組み

(1) 基礎基本の定着

① 学びの12か条

実のある学習をするためには、基本的学習習慣づくりは不可欠である。本校では、「できる わかる 学びをつくる西郷小 12か条」をつくり、基本的学習習慣が身につくようにした。前日から授業後まで場面に沿って提示することで、子どもたちが今何をしなければいけないのか分かるようにした。

② かがやきタイム (国語・算数)

かがやきタイムでは、国語、算数の既習事項の定着を図り、基礎的なつまづきを解消することをねらっている。それぞれの実施時間とねらいを次の通りである。

毎週火曜日の朝の時間には、国語ドリルを中心に、主語述語など国語の文法力の定着を図っている。毎週水曜日の放課後には、算数の計算プリントを使用し、既習事項の計算力の定着を図っている。

③ チャレンジテスト・定着度テスト

年間3回チャレンジ月間を設け、国語と算数で学習したことの定着を図っている。チャレンジ月間の最後には、チャレンジテストを行い、定着の度合いを把握するとともに、繰り返しの学習によって、「わかった」「できた」という達成感を子どもたちにもたせることも、ねらいとしている。

④言語活動の充実

ア 音読タイム

よい発声のし方やはっきりした話し方を身につけることをねらいとして、毎月学年ごとに詩や文章を選び、朝活動の時間に音読を行っている。

みんなで声を出すよさや内容そのもののよさも感じさせたい。

イ 読書指導

朝の時間に 10 分間の自分の選んだ本をの読書。また、読み聞かせボランティア「ピーカーブー」の方々による月 2 回の読み聞かせを通して、子どもたちに読書を楽しむ心を育む。また、毎月 23 日は、「親子読書の日」とし、家庭で読書に親しむ習慣づくりに取り組んでいる。

(2) 個に応じた指導

①特別支援の考え方

子どもは、それぞれ違った特性をもっていて、それが原因となって学習に取り組めないこともある。大勢の人がいるところが苦手だったり、まわりの掲示物に注意がすぐについてしまったり、本人のやる気とは別に授業に参加できない状況に陥っていることもある。特別支援コーディネーターを中心に支援会議を開き、少しでも個別の支援ができるようにしている。

また、視覚的な手だてを講じるなどして、学習しやすい状況をつくる、特別支援の考え方を生かした指導も心がけている。

②少人数指導

算数を中心に、学級を 2 コースに分けたり、学年を多コースに分けて、少人数指導を行ったりして、理解の遅進に応じた指導ができるように取り組んでいる。学級全体の中では、困っていることや分からないことが言えない子どもにもていねいな指導ができています。

(3) 研修

①研修主題「大切なこと」をまとめにつなげる手だての工夫

昨年度までの研修のねらいを継承しながら、授業改善を図り確かな学力が身につくよう研修を進めている。本年度は、付けたい力を授業の中の「大切なこと」と位置づけ、まとめの段階につなげる手だてを工夫することによって、大切なことがわかり、どの子にも定着することをねらう。

②研修内容

前年度までの研修内容を継承する。

・ 単元構想

学習指導要領をふまえた付けたい力を明確にして、単元構想を工夫する。

・ 学習課題の提示

できるだけ簡潔な学習課題を設置し、子どもが見通しをもって学習活動ができるようにする

・ まとめに向けての教師のはたらきかけ

考えたことや活動したことを付けたい力につなげる効果的な手だてを考える。

・ 大切なことの定着

付けたい力がどの子にもつきたかを視点に、学習のまとめをていねいに行う。

掛川市立倉真小学校

第5章 我が校のものがたり

重点目標 「ともにめざせ！ともにかがやけ！」

＜冀北プロジェクト＞

取組	内 容
学習スキル 「聴く・話す・書く」 「かけがわ型スキル」 1、2、3、4	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の（聴く・話す・書く）力をつけるために、到達目標を表にして各教室に掲示し、意識して取り組ませる。 ・クラスの実態に合わせて、重点的に取り組ませたい力を、短冊にして掲示し、一層の意識化を図る。
基礎基本 （ドリル学習） 「かけがわ型スキル」 該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着のために、週2回（火、水曜日、15分間）ドリルタイムを設定する。 ・国算の基本問題を練習して、全員が合格を目指す冀北テストを年4回実施する。 ・冀北テストの結果をもとに、長期休業中における学習支援（希望者による補習学習）を計画的に実施する。 ・抵抗なく、文章を書ける子を育成するために、書き方を指導する場を設定する。
音読指導 「かけがわ型スキル」 4	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することの楽しさを実感するために、朝の会（月・水・金）で、いろいろな詩に触れ、音読をする。 ・各月毎にクラスの詩を決め、設定したチャレンジ期間に3人の先生方に聞いていただく。
読書活動の充実 「かけがわ型スキル」 1	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむために、環境を設定する。 週3日の朝読書を設定（読書の記録ファイルに読書記録を記入） 教師やボランティアによる読み聞かせの実施する。 2階3階に図書コーナーを設置し、読み物は身近に置く。
冀北学習 「かけがわ型スキル」 1、2、3、④、5、6	<ul style="list-style-type: none"> ・倉真地区にかかわる様々な事柄に関心をもち、進んで課題を見つけ、粘り強く追究していく。「説明する力」をつけるために各学年でつけたい力を常に意識しながら、子どもたちの姿をとらえていく。そして、追究過程を大事にし、行っていく。
研修の充実 「かけがわ型スキル」 1、2、3、4、5	<ul style="list-style-type: none"> ・研修テーマは、「説明する力を身につけた子」の育成である。集団・相手を意識し、自分の思いの根拠を明確にして、わかりやすく伝えるために、思考力・判断力・表現力の3つの力を相乗的に育成し、具現化を図る。少人数学習のよさを生かし、授業改善を推し進め、特にICTを効果的に活用し、学力向上につなげていく。静岡大学の指導を受け、学び合いの中でICTを効果的に使って、理解を深める研修を実施する。
課題調査の分析 「かけがわ型スキル」 1、5	<ul style="list-style-type: none"> ・朝活動で実施している「朝漢」「朝計」「朝文」「eライブラリ」の充実により、基礎基本の内容は確実に定着している。今後は、生活に密着した内容を盛り込み、イメージ化させて問題に取り組ませる。説明する力をつけるべく、時間・時数制限を設けたり、条件をつけて書かせたりする。

家庭学習支援 「かけがわ型スキル」 6	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの家庭学習の習慣を身につけるために、家庭学習の手引きを作成し、配布する。その内容を、PTA総会でプレゼンテーションし、協力を呼びかける。 ・倉真っ子チャレンジカード（本読みカード）に、集中して学習に取り組む時間や学習内容を記入させ、生活習慣を身につけると共に、家庭学習の充実を啓発する。
---------------------------	--

< 金次郎プロジェクト >

取組	内 容
児童会組織 「かけがわ型スキル」 2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自治的な活動ができる組織をつくる。児童会以外の委員会でも集会などが企画でき、実施できるようにしている。提案書を書いたり、説明書を作成したり、書いて説明する機会も増やしている。
金次郎だまし（報徳精神）を生かした取組 「かけがわ型スキル」 2、4、6	<ul style="list-style-type: none"> ・報徳精神を自分の生活に生かし、子どもが成長するために、挨拶、清掃、草取り、金次郎ボランティアに取り組む。
学級活動の充実 人間関係づくりプログラム 「かけがわ型スキル」 4	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の年間計画に沿って、確実に行う。 ・各クラス学級会のやり方を確認する。 ・計画的に自治的活動を期に1回以上実施して、学級のまとまりを強くする。
道徳の充実 「かけがわ型スキル」 3	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの道徳」、「かけがわ道徳」を活用し、授業の充実を図る。 ・教科他領域と関連をはかり、道徳的心情や判断力、実践意欲を養い生きる力を育む。 ・道徳コーナーを設置し、家庭との連携を図る。
心の教育 「かけがわ型スキル」 2、4、6	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっとメール」を設置し、不安や悩みの相談がいつでもできるようにしている。 ・学校保健委員会や授業等で心の健康についての学習を行っている。 ・道徳で「なるほどなっとく金次郎さん」も取り入れ、日々の行動実践に取り組んでいる。
育ちの個別プラン 「かけがわ型スキル」	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの指導を考えるために、「育ちの個別プラン」を作成している。その中で、子どもの理解が深まる特別支援教育を基盤とした指導を考え、教師間で共有することを意識している。
キャリア教育 「かけがわ型スキル」 6	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動には、地域の方々や外部講師を多く招聘し、技術を学んだり、話を聞いたりして勤労への意欲をもたせている。特に清掃活動や金次郎ボランティアを通して役割と働くことの意義を理解させる。各学年、年3回以上の地域人材活用を目安にしている。

掛川市立土方小学校

第5章 我が校のものがたり

土方小学校では

「じっくり あったか いきいき」と学ぶ

こんな子どもの姿を目指しています！



掛川市立土方小学校 学力向上ものがたり

- ＜課題＞
- ◆基礎基本の定着
 - ◆視点「押さえる・仕掛ける・確かめる」を押さえた授業改善
 - ◆単元構想・学習課題の工夫等による魅力ある授業づくり
 - ◆言語活動の充実



- ＜目指す子ども像＞
- 意欲を持って粘り強く学ぶ子ども
 - わからないことを「わからない」といえる子ども
 - 仲間の意見に耳を傾ける子ども
 - 自分の意見を表現できる子ども

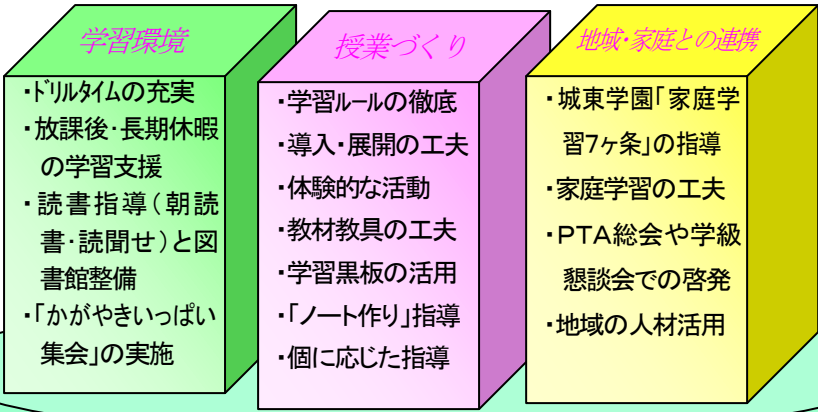
静岡県

- 「有徳の人」づくりアクション2014 . . . 『確かな学力』の育成
- 「静岡県の授業づくり指針」の活用
 - 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善
 - 理数教育や職業教育等の充実
 - 国際教育・外国語教育の充実
 - ICT活用指導力の向上
 - 校内研修の充実に向けた支援

掛川市

- 「夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」
- 「確かな学力」の向上を目指す学校
- 魅力ある授業の展開
 - 特別支援教育の充実
 - 小学校外国語活動の充実
 - 環境教育の充実
 - 少人数指導など個に応じた指導体制の確立

＜重点目標＞ **じっくり あったか いきいき**
 じっくり学び、あったかく接し、いきいき生活する子どもの育成



あったか学級経営
 支持的風土の醸成・居場所づくり

校内研修の充実

研修主題「自分の考えを高める子の育成」
 ～関わりの中で学び、高め合う集団づくりを目指して～

- ①思考力・表現力（記述力）をつける
 - ・考えをつくる（考えの明確化）
 - ・分かったことをまとめる（学習の振り返り）
- ②友達との関わりの中で学ぶ
 - ・友達の考えに触れ、自分の考えを高める
 - ・友達に自分の考えを分かるようにつたえる

魅力ある授業づくり・『確かな学力』の育成

掛川市立佐東小学校

第5章 我が校のものがたり

1 本校児童の実態及び付けたい学力

本校児童は、「素直」「明るい」「思いやり」「指導・指示事項への真面目な取組み」「作業を好む」等の従来のよさに加え、「自分の考えを持つ」「理由をつけて話す」の良い面が、授業や学校生活において伸びを見せてきた。その反面、「主体性」「根気強さ」に課題が残る。また、学習面における課題として、次の2点があげられる。

○長文に対する抵抗感があり、長文読解や長文で書き表す力、語彙力が弱い。

○資料の示す意味を考察する力が弱い。

本校では、これらの課題に対して、以下の取組により、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指していく。

2 「学力向上」への取組

(1) 学びの土台づくり

ア 削った鉛筆5本、シンプルな消しゴム、赤青鉛筆、定規、無地の下敷きを揃え、授業前の心構えをつくる。

イ 板書方法、ノート指導、まとめの表記方法を揃えて、授業の形式を統一する。

ウ 聞き方・話し方、根拠のある発言等の発表のスキルを教室掲示し、その定着を図る。

(2) 確かな学力をつける授業づくり

学力向上に向けて、研修テーマ「気づきや学びをつなぎ、子どもたち一人一人に確かな学力をつける授業づくり」をめざし、校内研修の充実を図る。

ア 児童の実態を踏まえ、「付けたい力(目標)」を明確にする。

イ 単元を貫く言語活動を取り入れた授業を構想する。

ウ 「付けたい力」を確実に付けるための、効果的な手立て(視覚化・焦点化・個への対応)を仕掛ける。

エ 思考力、問題解決力を養う学習問題を提起する。

オ 学びのプロセスの中で、「追究」「まとめ(振り返り)」の時間を多く取り、思考が次時に繋がるようにする。

カ 児童の気づきや学びを見取り、その後の授業構想や支援につなげる。

キ 資料(新聞・統計グラフ等)を活用し、自分なりの考えを持ち、交流の場で更に深める。

(3) 日常における言語活動の充実

ア 読書活動の充実

・毎朝15分間の朝読書を実施し、全校が静かな落ち着いた雰囲気の中で毎日の生活をスタートする。

・冊数やページ数で読書の目標を設定し、達成者を称揚する。

・学年相応の質の高い本を読ませることで、語彙や思考・表現力の幅を広げる。

・職員やボランティアによる読み聞かせを月2回行い、読書好きを増やす。

イ 「聞く」「話す」のスキルを教室前面に掲示し、授業以外の場面でも意識させる。

ウ 始業式、終業式等の代表児童の言葉の指導を行い、表現力を伸ばすと共に表現力の素晴らしさを全校児童で感得する。

エ 学年に応じた量、内容を設定し、日記を書き続けることによって、表現力を養う。

(4) 個への支援

ア 放課後学習「学びっこタイム」の実施

・単元終了後にチェックテストを行い、個別の指導が必要な児童に対して、放課

後補充学習を行う。それによって、国語と算数の基礎基本の定着を図ると共に「頑張ればできる」体験をさせる。

- ・月1回は、地域の教員OBにも学習ボランティアをお願いし、指導の充実を図る。
 - ・チェックテストや個別指導の結果を教育相談に繋げることで、保護者にも学習の定着状況を詳しく伝えていく。
- イ 少人数指導及びT・T授業の充実
- ・2年、3年、4年、5年の算数、理科において、単元に応じて少人数指導或いはT・T授業を行い、理数学習への興味・関心を高めると共に、基礎基本の定着を促進し、学習における達成感を味わわせる。

(5) 家庭学習の充実

ア 城東学園「家庭学習の7か条」の推進

- ・城東学園「家庭学習の7か条」を保幼小中で連携・推進していくことで、保護者の理解・協力により家庭学習の習慣化を図る。

イ 家庭学習における保護者の役割の明確化

- ・「1、2年では親が丸付け・間違い直し。3、4年では親子で一緒に丸付け・間違い直し。5、6年は子どもが丸付け・間違い直しをし親が確認する」ことを全校体制で行う。
- ・新聞の活用や「話す・聞くスキル」を使った音読、宿題プリントの工夫等、学年に応じたより効果的な家庭学習について研究する。

(6) 全国学力学習状況調査や業者テストの活用

ア 全職員で全国学力学習状況調査問題を解き、求められている力を把握し、低学年の時から本調査で求めている力を意識して授業構成する。

イ 業者単元テストで、単元においてどのような指導事項が重点となるのか学年部で研究し、単元構想づくりに役立てる。

3 「学力向上」を支える取組

(1) 自己肯定感の向上

ア 集合場所、学校において、「いつでも、どこでも、だれにでも」を合言葉にした挨拶運動を通して、相手や自分の存在感を意識することにより、自己肯定感を高める。

イ 児童会の積極的な取組として、「自分たちで考えた活動」を自ら評価し、次の活動につなげていく児童版PDCAサイクルを取り入れる。それにより、より活動への責任感が生まれ、より高い達成感や充実感を得ることで自己肯定感の高揚に繋げる。

(2) 温かな居場所づくり

ア 学級での話し合いで、温かい言葉（ほわほわ言葉）や冷たい言葉（ちくちく言葉）の存在を明らかにし、温かい言葉に溢れ、互いを支え合い、向上心を持って過ごせる支持的風土に満ちた学級づくりをする。

イ 学級において、挨拶の意義を話し合い、伝え合うことの素晴らしさやなぜ素晴らしいのかを考え、挨拶を学級の宝とする。

(3) 地域の力の活用

ア 限られた時間数の中で、どの子ども達成感が得られるようにするために、家庭科や社会等の実習の補助を依頼し、個のニーズに対応した授業を行う。

イ 地域の方が学校に入ること、個のニーズに対応した学習につなげる。また、地域の方々の目で見つめられることで、教師は改善を模索し、児童はその評価を受けて、自分自身を客観的に観る目が育ち、他者に配慮できる心の育成が図られる。

こうして、26年度佐東小「我が校のものがたり」は、展開されていくようになる。

- ・中小では、子ども達の学力向上に向けての大切な力「意欲を持ち、主体的に学ぶ力」を育てていきます。
- ・子ども達が意欲を持ち「学びたい 考えたい 伝えたい」の思いを継続して持ち、学んでいく授業づくりを進めます。
- ・下記の中小スタンダードを教員が共通理解して授業を進めます。特に、単元構想の工夫と学習問題の工夫、個への支援の充実を大切にしていきます。

「進んで学ぶ子の育成」するために

授業改善 「授業で育てる」

中小授業スタンダード

単元構想の工夫

〇〇 単元で「つけたい力」を明確化し、単元のゴールを子どもと教師が共有する
 〇〇 単元を貫く言語活動の充実を図る

③

- ・学びの振り返り（自分の学びの自覚）
- ・「できた」「わかった」の達成感の積み重ね
- ・つけたい力に照らした学びの表れの見取り



個への支援の充実

学びたい、考えたい、伝えたいという思いで主体的に学ぶ子

②

- ・構造的な板書作り
- ・自分の考えを作る活動の位置づけと個への支援
- ・言語活動の充実（何のために、どんな方法で）
- ・温かい聞き方、わかりやすい話し方の実践



①

- ・学びたい考えたい学習問題
- ・学習問題提示までの短縮化
- ・「やってみたい」という思いをもつような仕掛け
- ・つけたい力の子どもとの共有化
- ・つけたい力の明確化

学ぶ学習問題の工夫



学びを支える土台づくり

安心感のある学習環境づくり

学びを支える土台づくり

◆学習の土台作り

- ・学習用具を揃える
「学習に必要な物を揃えて持ってくるのができた」⇒年度末目標 95%
- ・話し合いのルール作り「温かい聞き方、わかりやすい話し方」の実践

◆基礎学力向上プロジェクト

- ・スタディタイム（週2回）、スタディテスト（週2回）、
「スタディテストに向けて努力した」⇒年度末目標 95%
とことんテスト（長期休業前）の実施
- ・中小日記（毎日）、思い出作文（年10回）
- ・放課後学習支援（年8回）

◆読書生活の充実

- ・朝読書、読書週間、必読図書読破、読書の足跡
「読書が好き」⇒年度末目標 90%

◆保護者と連携した家庭学習の充実

- ・学年目標時間「10分×学年+10分」の設定
「学年目標時間学習ができた」⇒年度末目標 85%

◆学年発表集会、学び発表会（2月）

- ・表現力、自己肯定感、支持的風土の醸成

落ち着いて安心感のある学習環境づくり

中小くさ

5つのステージで重点的に指導します。

- 1 大きな声であいさつをします。
- 2 校内は右側を歩きます。
- 3 「きれいだいすき」のそうじをします。
- 4 友達を大切にしたい呼び方をします。
- 5 正しい言葉遣いを身につけます

「大きな声であいさつができる」⇒年度末目標 90%

「だいすき掃除ができる」⇒年度末目標 95%

◆スポーツタイムの充実

- ・ドッジボール大会（6月）、仲よし長縄集会（7月）
- ・リレー大会（10月、11月）
- ・体力アップコンテスト（1月）

掛川市立大坂小学校

第5章 我が校のものがたり

学校教育目標「心の鐘をひびかせる子」に向かい、他と関わり合う中での個の確立を目指していきます。平成26年度は「自己肯定感・自己有用感を高める」ことに重点をおき、「自分でもやれる」「自分が必要とされている」等、今の自分の有り様を率直に認め、そこから出発して、周囲の人に期待され、力になろうと努力する児童の育成に努めていきます。

「学びつくり」の取組では、『できた!』『わかった!』を実感できる子の育成を目指します。全職員が、学びのユニバーサルデザインを意識し、①学びの土台づくり ②高め合う授業づくりの両輪により確かな学力の育成を進めていきます。



学びの溢れる大坂小学校

「できた!」「わかった!」を実感できる子

学びの土台づくり

- 1 学びのルールを身につける。
(第1ステージ)
- 2 話す力・聴く力を高める。
(第2ステージ)
- 3 家庭学習の習慣をつける。
- 4 基礎学力の定着
- 5 読書活動の充実

学びのユニバーサルデザイン

高め合う授業づくり

- 1 めざす授業像をつくる。
- 2 5つの場を設定する。
つかむ→見通しを持つ→考えを持つ
→考えを深める→振り返る
- 3 学び合いのある授業をつくる。
(第3ステージ)

校内研修の充実

- 「できた!」「わかった!」を実感できる子
- * 単元構想の工夫
 - * 1時間の指導過程の工夫

つくる

学びのルールを身につけます。

- ・学びのルールの定着
- ・家庭学習の習慣
- ・めざす授業像
- ・読書目標を立てる。
- ・学習環境を整える。

家庭学習の習慣

そだてる

話す・聴く力を高めます。

- ・話し方・聴き方の指導(話す山・聴く山)
- ・話す場、聴く場の設定
- ・自分のめあて

親子読書

さかせる

高め合う授業づくりを目指します。

- ・何を学ぶか、何を学んだかの確認
- ・考えを深める
- ・学び合いのある授業
- ・めざす授業の修正

ノーメディアデー

つなげる

学んだことを生かします。

- ・学んだことの定着を図り、次年度につなげる。
- ・自分についての力や授業を振り返り、認め合う。

「開かれた学校」 家庭・地域の支援と協働で子どもを育てる大浜中学校区学園化の推進

○子育て5か条 ○学校公開 ○交流連携活動 ○学校評議員会・大坂小教育を語る会 ○地域素材の教材化

大坂小学校の学びのものがたりははじまりました。

つくるステージは、学びのルールを身につけます。



めざす授業像決定！各学級相談して決めました。

筆箱の中身は、筆箱の位置は……学習の構えをつくるために、**学びのルール**を一つずつ身につけています。

そだてるステージは、話す・聴く力を高めます。



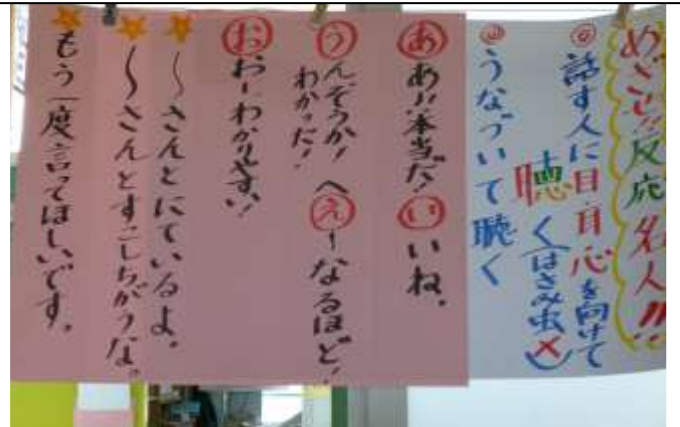
話す山・聴く山、レベルアップを目指します。



「私は、こう考えるけどどう？」

めざせ！反応名人！

聴き方や反応を学び合います。



掛川市立千浜小学校

第5章 我が校のものがたり

■ 学びつくり部の取組

学ぶ楽しさが実感できる授業を展開し、確かな学力を育成する

□ 心つくり部の取組

支持的風土のある学校・学級づくりを通し、豊かで健康な心身を育成する

< 授業改善 >

- 児童とともにめざす授業像の設定
- 付けたい力をはっきりとさせた単元構想づくりを計画 『押さえる』『焦点化』
- 「聴く」「話す」のルールづくり

< 基礎学力定着支援 >

- 学びのルールを確立
- ドリルタイム（火曜・漢字、金曜・計算）
- 学校統一したノートの書き方を指導
- 図書館活用と読書目標を設定 『視覚化』

< 家庭との連携 >

- 家庭学習の手引きの配付し、取組を伝達（家庭学習 10分×学年+10分）
- 自主学習の推進
- 家庭読書の設定

< 人間関係づくり >

- 人間関係づくりプログラムを実施
- 児童の実態の把握
 - ・ 児童教育相談の実施をする
 - ・ 千浜っ子を知る会で個を紹介する
- 児童とともに学級のルールづくり

< 目標に向けて自分を高める >

- 運動会に向けて、目標を立て、達成感を味わう

< 道徳教育を推進 >

- 場に応じた対応の指導
- 道徳授業の実践と道徳コーナーによる啓発
- 春花壇栽培を通して、やさしさを培う

1期
芽をのばす

< 授業改善 > 『仕掛ける』

- めざす授業像に向けた実践と振り返り
- 授業研究による方向性の確認と検証
- 「聴く」「話す」の実践と検証 『確かめる』

< 基礎学力定着支援 >

- 学びのルールを確立
- ドリルタイムの継続と個人の力の分析
- 図書館活用と読書目標の確認と賞揚
- 定期テストの実施と実態把握

< 家庭との連携 >

- 家庭学習の推進と個人啓発
- 自主学習の賞揚とさらなる推進
- 夏季面談で子のよさと課題を伝え、夏季期間の取組を共通確認する

< 人間関係づくり >

- 人間関係づくりプログラムを継続実施
- 児童の実態の把握
 - ・ Q-U アンケートを実施する
- 話し合い活動の充実をめざし、取り組む

< 目標に向けて自分を高める >

- 水泳のめあてを立て、達成感を味わう
- 「千浜っ子種目」強化、認定

< 道徳教育を推進 >

- 地域の偉人を紹介し、「地域のよさ」と「目標」の必要性を伝える
- 花壇作りを通して、根気を培う

2期
葉をふやす

<授業改善>

- めざす授業像に向けた実践と振り返り
- ◎他と関わる授業づくりの推進
- 「聴く」「話す」の実践と検証の継続

<基礎学力定着支援>

- 学びのルールを再確認
- ドリルタイムの継続と個人の力の分析
- ◎個別補習の実施 『個への対応』
- 図書館活用と読書目標の確認と賞揚
- ◎読書感想文を書く(表現力を育てる場)
- 図書館を活用した授業の実践

<家庭との連携>

- 家庭学習の推進と個人啓発
- 自主学習の賞揚とさらなる推進
- ◎家庭学習取組紹介の場を設定

<人間関係づくり>

- 人間関係づくりプログラムの実施
- 児童の実態の把握
 - ・児童との面談の実施(第2回)
- 話し合い活動を継続実施
 - ・話し合いが深まりと活動の充実

<目標に向けて自分を高める>

- 学年毎の活動に向けた目標の設定と取組
 - ・6年……陸上大会
 - ・5、4年……音楽発表会
 - ・2、3年……栽培活動
 - ・1年……秋活動
- マラソン大会のめあてづくりと賞揚

<道徳教育を推進>

- 「友情」「継続」の必要性を伝える。
- 秋花壇の栽培を通して、成果を喜ぶ



3期

花をさかせる



4期

実をむすぶ

<授業改善>

- めざす授業像に向けた実践の振り返り
- ◎個の活躍(発表)の場の設定
- 高学年は自分たちが組み立てる授業づくりの推進
- 「聴く」「話す」の検証

<基礎学力定着支援>

- ドリルタイムの継続
- ◎個別補習の実施 『個への対応』
- ◎個の伸び、課題を数値で示す。
- 図書館活用と読書目標の確認と賞揚
- ◎1学年上の書籍を紹介

<家庭との連携>

- 個人の成長と課題を明確に示し、これからの学校・家庭での働きかけを明確にする
- 自主学習の定着
- ◎家庭学習紹介の会を実施

<人間関係づくり>

- 人間関係づくりプログラムの実施
- 児童の実態の把握
 - ・第2回 Q-U アンケートを実施し、取組みを確認するとともに次年度の課題を明確にする。
 - ・個の特性を記録し、次年度につなげる。
- ・児童との面談の実施
- 話し合い活動の成果を確認・まとめ

<目標に向けて自分を高める>

- 縄跳び大会、千浜っ子種目の設定と賞揚

<道徳教育を推進>

- 春花壇準備を通して、取組と次への期待や愛校心を培う

学習の充実・学力の向上は、学びへの働きかけと生活への働きかけがかみあって成立つと考える。
※その他

- ・各期毎に、児童アンケートをとって学習への関心(楽しいか)と学びの実感(わかるか)を把握し、時期の取組を考える。
- ・個に応じた、支援の方法を検討し、実施に向けて進めていく。

掛川市立横須賀小学校

第5章 我が校のものがたり

1 主役である子どもたちへ

(1) 基礎基本の定着

ア 少人数指導、ティームティーチングの充実

3年生から6年生までの算数で2C3T(6年は3C4T)の少人数指導を行う。一人一人にあったきめ細やかな指導を心がける。

1、2年生では、算数でTT指導を行う。それにより、低学年での基礎基本の徹底を図る。

5年生の理科でTT指導を行う。それにより実験観察などの体験的な学習を積極的に行い、理科好きな子を育てていく。さらに安全面にも十分な配慮を行う。

3、4年生の国語でTT指導を行い、きめ細やかな指導を心がける。言語活動も積極的に取り入れ、全ての教科の基礎となる、書く力を育成していく。

イ たしかめテストの実施

長期休業前に「たしかめテスト」として、学校で統一して日を決め、自作の国語と算数のまとめテストを行う。問題の質や結果を研修推進委員会等で検討し、より効果的な取組となるようにする。

ウ 単元テストの再考

本校の児童の実態と今求められている学力を考慮して、今まで使用してきた単元テストを「今求められている力が本当についているか」という視点で見直す。そして、教師の意識改革を図り、授業改善につなげていく。

エ めざせ！聞き名人・話し名人

話し方・聞き方の基本形を各教室に掲示し、上手な話し方・聞き方の基本形として全校同一歩調で指導し、言語活動の基本としていく。

(2) 言語活動の充実

授業の最後に本時に学習したことを教科言語を使って、自分の言葉でまとめるための時間をとるようにする。そのことを意識した横小授業スタイルを示し、言語活動を重視した授業展開を行う。また、集団追究の工夫として、ペア交流、3人組等の活動を授業で意図的に行い、どの教科でも教科言語を使ってまとめるようにする。

(3) 学校図書館教育の推進

司書教諭とのティームティーチングを各学年で積極的に取り入れ、学校図書館を活用した授業を推進する。また、保護者ボランティアによる読み聞かせ、図書館の環境づくりなど、読書に親しむ活動を積極的に行う。火、水、木曜日の朝の10分間を全校「読書タイム」と位置づけ読書の日常化を図る。

横小授業スタイル

段階	○児童の表れ・活動	○教師の押さえ所・ポイント
つかむ (5分)	学習課題 「あれ？なんでだろう。」 「昨日のやり方では、できない。」 「解決したい！」	・身近な話題のものや数を口にした学習課題を提示し、意欲を持たせる。 ・既習との比較等から、「？」(=ねらい)を引き出す。
つくる (5分)	学習問題 「〇〇の方法でやってみよう。」	・数人の「？」(=学習問題)を聞き返したり、幅さぶったりして、全体の「？」にしていく。
ふかめる (20分)	【個人追究】 「矢印や図を使ったら、わかりやすい。」 「ヒントカードで、わかった。」 【集団追究】 「〇〇さんに似ていて、・・・」 「ぼくは、～です。わけは、・・・」 「〇〇さんに付け足して、・・・」 「～とすると、～だから、・・・」	・解決する方法をいくつか見通し、キーワードを板書する。 ・困っている子どもへの個別指導と、意図的指名のための個々の把握をする。 ・伝える力をつけるために、少人数で意見交換をする
まとめる (15分)	まとめ 「〇〇が、〇〇だとわかったよ。」 【練習問題】 「わかった！できた。」 「もう少し挑戦してみよう。」	・意図的指名による発表の中から、キーワードとなる部分やつけたい力わかる板書をする。 ・ネームプレート等を使い、所属感を持たせる。 ・切り返しや聞き返し等をする中で、学習問題の答え(=つけたい力)に収束させる。 ・つけたい力の部分を穴埋めにしてまとめたり、板書のキーワードを使って自分の言葉でまとめたりする。 ・簡単な練習問題を2～3問出題し、個々の学習の定着を図る。



項目	平成25年度	平成26年度目標
年間貸し出し冊数	約 14,000 冊	15,000 冊

※平成25年度低学年読書数平均年間100冊達成

(4) 学習を支える体制環境作り

ア 「横小しぐさ」の徹底

落ち着いた学校生活が、学習に取り組む姿勢につながると考え、互いを思いやり尊重し合える人間関係作りを目指し「横小しぐさ」を生徒指導の柱として実践していく。



横小しぐさ 10キラリ

横須賀小学校に10個の星が輝くように、「横小しぐさ 10キラリ」に取り組みましょう。横小全員で、「笑顔・夢・感動」をめざし、横小しぐさを増やしていきましょう。みんなの力で、横小をキラキラと輝かせましょう!

- 1 みんなが気持ちよく生活できるように、大きな声であいさつをしましょう。
- 2 学校にありがたい気持ちを込めて、掃除は黙って行いましょう。
- 3 友達が笑顔で生活できるように、ちくちく言葉を減らし、ぼかぼか言葉を増やしましょう。
- 4 友達を大切にするために、友達の名前を「さん」づけしましょう。
- 5 みんなが安全に過ごせるように、廊下は右側を歩きましょう。
- 6 友達の思いがわかるように、話を最後までしっかり聞きましょう。
- 7 全校の友達の名前を覚えるように、名札をつけましょう。
- 8 みんなが生活しやすいように、準備や片づけをしっかりと行いましょう。
- 9 たくさんの友達ができるように、休み時間(きりかタイム・昼休み)は外で仲良く遊びましょう。
- 10 みんなが気持ちよく生活できるように、課活動や委員会活動に選んで協力しましょう。

「横小しぐさ 10キラリ」は、友達や周りの人たちを思いやる行動です。他にもいろいろな思いやりの行動があります。周りの人たちの心が「ぼかぼか」になる行動をして、横小を「あったかい」学校にしていきましょう。

イ 「よこすか学力アップチャレンジ」の実施

基本的な学習習慣、生活習慣を整え、授業に集中する姿勢を身につけることを目標に、月ごと実施項目(チャレンジ内容)を決めて全校で取り組んでいく。1週間自己評価をして、クラスごとの集計結果を放送で全校に知らせ、意識付けをしていく。

また、年度当初のPTA総会で、持ち物や筆入れの中身の説明を行い、4月のチャレンジ内容の徹底を図る。

(1) 学びつくり部の全体計画を踏まえ、月ごと下記のようなテーマを決めて、実践していく。

	名称(～週間)	チャレンジ内容
4月	忘れ物ゼロ①	①下敷き②筆箱(鉛筆・赤青鉛筆・消しゴム・線引き・ネームペン)を持っている。③全てに名前を書いている。
5月	聞く・話す・書く①	話し手の方を見て聞き、反応する。
6月	家庭学習完全実施①	①本読み②漢字③計算
7月	聞く・話す・書く②	クラス全員が発表する。
9月	忘れ物ゼロ②	①下敷き②筆箱(鉛筆・赤青鉛筆・消しゴム・線引き・ネームペン)③授業の持ち物(教科書やノートなど必要なもの)を持っている。④全てに名前を書いている。

2 家庭や地域へ

(1) 家庭学習の習慣化

大須賀中学校区学園化構想でリーフレットを作成し、家庭学習の習慣化を図るために呼びかけを行う。懇談会や学年学級便り等でも家庭学習の話題を取り上げ、家庭学習の大切さについて話し合い、保護者に家庭学習に対する関心をもってもらいたい。

(2) 実態アンケートの実施

年間4回の子どもアンケートと、保護者アンケートにより、子どもや保護者の学校の生活や授業への考え方、家庭の生活の様子を把握し分析する。分析結果は学校便り等で保護者に知らせ、学校の新たな取組、家庭学習の大切さについて御理解いただく。

(3) 求められる学力についての啓発

昨年度、静岡県の学力が大きな話題になったことをよい機会ととらえ、学習指導要領で求めている学力や、今学んでいる学習内容について、保護者や地域に、学校便りや学年便り、PTA総会、懇談会などを活用して知らせていく。それにより、学校で学んだことを生活の中で機をとらえて親子で活用し、国語算数に対する関心を高める手立ての1つにしていく。

掛川市立大淵小学校

第5章 我が校のものがたり

行ってらっしゃい！



おはよう！



1 わくわくタイムでミニ鍛錬

- 月、木、金曜日の朝 5分
- 漢字5問テスト（月曜日）
読解・計算のドリル学習（木・金曜日）
- 漢字・計算・読解力の向上を目的に実施



- ・漢字が書けるようになった。
- ・主語・述語・修飾語がわかった。
- ・計算問題がとけた。

2 授業で学びに向かう力の育成

- 毎日の授業
 - ・「子どもの問いを生かす発問の工夫」を柱にした研修
 - ・目指す授業像「いきいきわくわく楽しい授業」

地域で生きる力
体験学習



- ・今日の授業の〇〇やってみよう。
- ・もっとしりたいな。
- ・授業の続きはどうなるのかな。

3 確かな学びを支える学習の構え

- 毎日の授業
 - ・「目と耳と心で聴く」学習のルール

- ・聞いて聞いて
- ・～だと思うけど、ここまではいい。
- ・〇〇さんの言いたいことは…かな。
でも、わたしは、～だと思う。



4 放課後学習支援 寺子屋タイム

- 毎週金曜日の放課〔個別指導などの時間〕
- 補充学習・テスト直し・宿題等
- 子どもの学習支援を目的に実施

- ・～ができなかったけどできたぞ。
- ・～がわかったよ。
- ・宿題のここが難しかったな、でもわかってよかったな。



5 わからなかったことがわかるマスターテスト

○7月・12月・2月

○学習した範囲の漢字・算数の基礎基本の定着を目的に実施

- ・合格目指してがんばるぞ。
- ・1回目はわからなかったけど、2回目はわかったよ。



6 長期休業中の学習支援

○夏休み・冬休み

○学習内容の補充・夏休みの課題支援を目的に実施

- ・～ができなかったけどできたよ。
- ・パソコンを使った調べ学習ができたぞ。
- ・理科の顕微鏡を使った研究ができてよかったな。



7 心の栄養「読書活動」

- ・読書活動の実施（わくわくタイム終了後）
- ・読み聞かせの実施（毎週火曜日）
- ・読書の日（毎月23日）
- ・図書ボランティアの活動

- ・読書は自分の想像の世界が創れて楽しいよ。
- ・読み聞かせは、楽しみ。だって、お話の世界に入れるよ。

保護者の協力
・親子読書のすすめ
・教育相談
(いつでもどこでも)



心の誘惑
TV・ゲーム等



今日も楽しい1日
だった



どんどん伸びるぞ

- ・安心して勉強することができるよ。
- ・困ったとき支えてくれる仲間がいるよ。
- ・みんなでのばしていきたい。
- ・みんなといっしょに考えてみたい。

かがやく 大松の子

中 学 校

掛川市立栄川中学校

第5章 我が校のものがたり

1 生徒の実態

本校の生徒は、まじめな生徒が多く、学習に対する意識も高く、意欲的に学習に取り組むことができる。家庭学習も目的をもって取り組むことができ、定着度も高い生徒が多い。しかし、自分の意見をもっていても、それを表現しようとする態度や、聞き手を意識した表現には課題がある。

そこで、栄川中学校では、子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、これまで進めてきた栄川中学校区幼・少・中一貫研修や我が校の生徒の実態にあった研修をもとに、以下のことに取り組めます。

2 意欲的に考え、表現する生徒を育てる授業づくり

- 学びのユニバーサルデザイン（焦点化・視覚化・個への支援）の考え方を取り入れた授業を構成し、「わかる・できた」という喜びを感じさせる。特に、焦点化・視覚化という観点から、各授業において、もっとも中心となる学習課題や学習問題を赤枠で囲むことや、まとめは青枠で囲み、時間を確保することを全校の統一事項として授業を構成していく。
- つけたい力を明確にし、その育成を目指した言語活動を充実させる。特に、各授業において、学習指導要領との関連を明確にし、言語活動をつけたい力をつけるための「仕掛け」としてとらえること。また、話し方聞き方スキルを設定し、発達段階に応じたコミュニケーション力・表現力の育成を図る。
- 「授業づくり三原則」を意識した授業づくりを展開する

授業づくり三原則

- (1) 学習指導要領の目的や内容を明確に押さえて授業を行う。『押さえる』
- (2) つけたい力に沿って効果的な手だてを仕掛ける。『仕掛ける』
- (3) 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。『確かめる』

3 主体的に学習に取り組む態度の育成

- 定期テスト前1週間に学習相談の時間を設定し、個への対応をする。
- 生徒全員にやればできるという成就感を味わわせることと、基礎学力の定着を図るために、定期テストの2週間後等に基礎学力テスト（年5回・5教科）を実施する。

4 学校と家庭・地域との連携

- 栄川中学校区幼・小・中一貫研修『家庭学習の手引き』を中心とした家庭学習の充実を、家庭と連携して推し進めていく。
 - (1) 生活リズムを安定させよう。
 - ① 時刻を決めて学習に取り組む（中学生：1日2時間以上）
 - (2) 学習環境を整えよう。
 - ① 部屋の中、机の上を片付け、学習に集中できるようにする。
 - ② 物を食べながら学習をしない。
 - ③ テレビや音楽、携帯電話の電源は切って学習する。
 - (3) 見届けと励ましをしよう。
 - ① 学習の様子を見る。（学習が終わったら声をかける。）
 - ② やることをきちんとやったときにはほめる。
 - (4) 「栄川中学校区子育て十ヶ条」を、年間を通じて実践しよう。
 - ① 大人から笑顔であいさつ、あいさつは「だいじ」の精神で。
だ・・・だれにでも
い・・・いつでも
じ・・・自分から
 - ② テレビ、ゲーム、メールにご用心！たまにはノーメディアデー
 - ③ 子どもも家族の一員・・・できることからお手伝い
 - ④ 大人が手本を示そう社会のルール
 - ⑤ 「ありがとう」、「ごめんなさい」で温かな家庭づくり
 - ⑥ 寝る前に読もう聴かそう本一冊
 - ⑦ 気づこう子どものサイン！かけよう大人の優しいひと声
 - ⑧ 早寝、早起き、家族そろって「朝ご飯」
 - ⑨ しっかりほめて きちんとしかる
 - ⑩ 教えよう一つの命の大切さ

掛川市立東中学校

第5章 我が校のものがたり

1 これまでの状況

過去4回の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、継続的な課題は見あたらない。しかし、平成24年度の結果や生徒の学習状況を改めて見直すと、以下の点を課題として挙げるができる。

- 生徒は、宿題にはまじめに取り組むが、主体的な家庭学習（予習・復習）には至っていない。
- 生徒は、教師の話をしっかり聞いたり、ノートを丁寧にとったりして、まじめに授業に参加しているが、主体的に課題を追究する姿勢は弱い。
- 結果として、思考力・判断力・表現力等の力が十分には育っていない。

2 課題を克服するために

上記の課題を克服するために、本校では、ここ数年「学び合い」授業に力を入れている。学び合いの授業は、小集団学習などにより生徒同士の関わり合いを中心としたもので、①学習活動への参加度が向上し、学ぶ意欲を向上させることができる。②教え合うことが日常化し、学習の効率化を図ることができる。③双方向の発信ができ、思考・判断・表現が一体となった言語活動が推進できる。④他との比較ができ、自己認識（メタ認知）できるようになる。といった学力向上の効果が期待できる。

本校では、学び合いを中核とし、併せて以下の取組を行うようにした。

(1) 全職員で共通実践を行い、「学び合い」授業を推進する

- ア 学び合いルール（理由をつけて発言させる。自分の言葉でまとめさせる。）の徹底
- イ 3色ルール（学習課題、学習問題、まとめを3色で色分けする）でポイントをおさえる。
- ウ 対話の生まれやすいコの字型座席とし、小集団を積極的に活用し、学び合いを活性化する。

(2) 基礎学力の定着

ア 家庭学習への支援

- ・継続的な家庭学習（漢字、数学、英語1P）と確認テストで定着を図る。
- ・保護者に「家庭学習充実」のプレゼンを実施し、保護者と協力し、家庭学習の内容向上を図る。
- ・有効な家庭学習の仕方、ノートづくりを集会で紹介したり、掲示物にしたりして啓発に努める。

イ 朝の読書と学習活動の実施

- ・週4回の朝読書と、週1回の金曜学習タイム（ドリル学習）を行う。

ウ 長期休業中の学習支援の実施

- ・長期休業における補充学習を計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。

(3) 活用力の育成

ア 言語活動の充実

- ・朝の会の1分間スピーチで、新聞記事、社説、コラム等を取り上げ、A4判半分程度の手紙に自分の感想や考えをまとめ、発表する。

イ 地域の人に学ぶ活動「掛川学」の推進

- ・地域との関わりを深め、他者から学ぶ機会を増やし、多様な考えに触れる。

(4) 本校の取組の分析・検証

ア 標準学力調査の活用

- ・全学年で標準学力調査を実施し、その調査結果の分析をもとに各教科における課題を明確にするとともに経年変化を比較、検証する。

イ 全国学力学習状況調査プレテストの実施と授業での問題活用

- ・ 2年生でプレテストを実施したり、授業において問題を活用したりする。

ウ 生徒による授業評価の実施

- ・ 生徒による授業評価を行い、授業改善のための手がかりとする。

エ 授業研究公開による「授業づくり」「学力向上」の検証

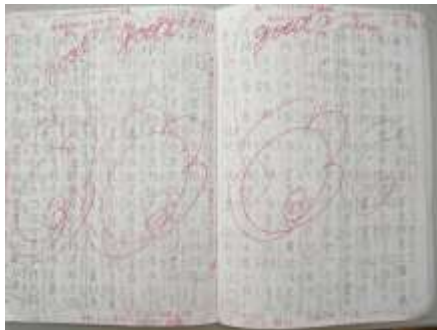
- ・ 6月の地域支援課定期訪問、9月以降の管理主事訪問、11月の保幼小中一貫研修会

3 実践状況

みんなで学ぶ授業（どの生徒も意欲的に参加）



家庭学習や授業ノートの質的向上（充実したノートが増えてきました）



読書の推進（継続的な朝読書と地域人材を活用した読み聞かせ）



地域の人材の多様な考えに触れる
総合的な学習の時間「掛川学」より



校内研修で指導力向上を図る
若手教員の授業力向上



4 今後について

学び合いを中心とした授業改善は、明らかに生徒の表情を変え、より意欲的な学習態度に変えている。非常に効果が期待できる状況である。今後、現在取り組んでいる方策を継続して行うとともに、客観的に検証できるよう、標準学力調査や生徒アンケートの結果を蓄積し、経年比較を通して本校の学力向上ものがたりの結末を検証し、見届けたいと考えている。

掛川市立西中学校

第5章 我が校のものがたり

第1章で説明されているように、本提言で定められている「確かな学力」は単純な知識量のみを指すものではありません。公教育では、目の生徒が将来社会に出て、その社会の中核を担うべき資質や能力を身に付けることを目的としています。つまり、少子高齢化・知識基盤社会・グローバル化が進展し、雇用形態が多様化するであろう社会で生きのびる事のできる資質と能力を育てる必要があります。

全国学力・学習状況調査の分析などからみられる本校生徒の傾向

- ・学習に前向きに取り組み、発表の仕方、課題の提出状況も良好。
- ・「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う」と答えた生徒
本校38.9%(県平均30.1 全国平均35.4)
- ・自分の考えを発表できても、それを筋道立てて説明をしたり、書いたりすることは苦手としている生徒が多い。

「家で宿題をやっていますか？」
「やっている」と解答した生徒の学力調査の平均正答率＝80%前後
「やっていない」と解答した生徒学力調査の平均正答率＝10%前後

そこで、西中学校では

学校教育目標
心豊かに 磨き合う仲間

と

重点目標
思いやり 高め合い
感謝する心を大切にする生徒

の育成に努めます

また、各種研究・報告からも

学力向上＝知育ではなく、知育・徳育・体育は密接な関係にある。
学力向上には学校・家庭・地域との連携が必要。

とあります。

以上の事から、西中学校では次の四つの視点から、知育・徳育・体育を包括した全人教育を推し進めます。

1 学びの充実

これからの時代

「暗記中心、知識偏重の授業 教師から一方的に語りかける講義型」から

「自ら考え問題を解決する能力を身に付ける授業 生徒が能動的に参加する授業」へ

そのために

- 付けたい力を明確にした単元構想を大切にします。
- まとめの時間を授業の終わりに位置づけ、学習内容の定着を教師が見取ります。
- 意図的な小集団活動を取り入れます。
- 具体的な思考を助けるためにモノ、PCの積極的活用を進めます。
- 掛川東高校との共同企画で掛西学園版「イングリッシュキャンプ」を開催します。
- 掛川西高校との共同企画で「わくわく実験教室」を開催します。

2 「心とからだの教育」の充実

人格形成の基盤となる、心と体の両面を育てます。

そのために

- 報徳サミットを開催します。
- 本校OBを講師に招き、本物の芸術にふれあう授業を実施します。
- 毎月19日を「報徳の日」とし報徳にちなんだ取組を企画します。
- いのちの授業を実施します。
- 保健指導(性に関する指導等)を充実させます。
- 栄養士、養護教諭とのTT授業を推進し食育指導の充実を図ります。
- 新しい防災教育「手当て学」を地域防災訓練で実施します。
- 週1回の「見つめる会」を通していじめや不登校対策等を検討します。

3 美しく安全で快適な学習環境の創造

豊かな人間性の育成のためにも生徒が学ぶ空間は、美しく・安全なものにします。

そのために

- 黙働清掃ならびに気付き清掃を推進し、生徒自らが快適な環境を作り出します。(創自)
- 校内外で明るい声が響き合うあいさつ運動を推進します。
- 心のこもった「美しいあいさつ」や「美しい言葉づかいと姿勢」を推奨します。
- 校内・教室に生徒作品の展示、学習に関する掲示物の充実を図ります。

4 地域に根ざした夢のある学校づくりの推進

学校と地域の双方向の連携をすすめ、ひいては学校・地域の活性化の原動力になります。

(学園化構想の推進)

そのために

- 読み聞かせ、図書、学習など学校支援ボランティアを募り教育活動に参加してもらいます。
- 防災訓練・リサイクル活動・公民館の清掃等、地域活動に生徒が積極的に参加します。
- 「あいさつでつながろう運動」「いじめ追放宣言」を地域へ広げていきます。
- 吹奏楽部、美術・書道作品等の出展など地区文化祭へ積極的に参加・協力します。
- 掛西学園内の4園・4校が協力して合同研修会を進めていきます。

掛川市立桜が丘中学校



第5章 我が校のものがたり

確かな学力の育成

○授業改善の視点(静岡県教育委員会)

- 1 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。・・・「押さえる」
- 2 付けたい力に沿って効果的な手立てを仕掛ける。・・・「仕掛ける」
- 3 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。・・・「確かめる」

○かけがわ学力向上ものがたり

- ・「新たな学びのプロセス」への転換
- ・言語活動の充実
- ・地域の人に学ぶ活動の推進
- ・読解力を伸ばす問題の作成
- ・読書活動の充実
- ・学力向上指標の提示



○中学校区学園化構想(桜が丘学園)

- ・家庭・地域等との連携を強化し、開かれた学校の一層の推進を図る。
- ・「すこやか子育て10ヶ条」の活用
- ・「桜が丘学園学習のてびき」の活用

学びの実感を積み重ねる「ものがたり」

○達成感の味わえる授業づくり

- ・学習課題の明確化
- ・課題設定の工夫
- ・具体物の活用
- ・板書の工夫
- ・まとめ時間の設定
- ・授業評価による授業改善



生徒が活躍する授業づくり

○確かな学力の定着

- ・基礎・基本の徹底
- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・家庭学習の充実
- ・朝読書の充実、図書環境の整備
- ・補充学習により学習の継続性を図る

○学習指導

- ・授業5原則の意識化
- ・基礎学習の実施
漢字・数学・英語の1Pノート
- ・チャレンジ学習の実施
国語、数学、英語の基礎学力テスト



〈桜が丘中学校研修テーマ〉(道徳教育の抜本的改善・充実に係わる支援事業)

「やる気」「やさしさ」「たくましさ」をもった子どもの育成

～確かな実践力を育む道徳教育の推進～

〈道徳重点目標〉

「自主・自立」自分で考え判断し、責任ある行動のとれる生徒を育てる。

「勤労社会への奉仕・公共の福祉」主体的に集団や社会に関わり、社会に役立つ生き方を目指す生徒を育てる。

〈学年重点指導の内容〉

全学年：自らの規範意識を高め、自らを律することができる。

1年生：自分で考え自分の意志で決定する。勤労の意欲や労を惜しまない気持ちをもつ。

2年生：自分にとっても他人にとっても良い行動を考えることができる。奉仕の精神で何かやりましょうかと言える。

3年生：自分の行為の結果に責任をもつ。どうすれば皆が幸せになれるかを考えることができる(公共の福祉)。



1 確かな学力の育成のために

(1) 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえる

学習指導要領を再度読み込み、授業で付けたい力を明確にして授業展開をする。学習指導要領に示されている目標や内容を確認し、付けたい力（単元（題材等）又は本時の目標）が明確な授業になれば、学習課題や発問、板書なども充実し、授業のまとめや確認の時間も有効に活用されると考える。生徒には授業の目標はもちろん、単元の進め方や1時間の展開の見通しをもたせることで、安心して授業に取り組めるようにしたい。



(2) 効果的な手立てを仕掛ける

付けたい力をもとに言語活動の「目的」「内容」「形態」「方法（時間や役割）」等を検討し、より効果的な活動を設定する。思考力・判断力・表現力を育むために、読み手や聞き手を意識して説明する場の設定を意図的に行い、根拠をもって伝えることができる力を付けさせたい。言語活動を有効に活用し、根拠に基づいて自分の考えを書く活動を位置づける。

(3) 学習内容の理解を確かめる場の設定

生徒が何を学び、何を身に付けることができたかを自分自身で自覚できるようにする。授業の終末に身に付けた力を発揮できるかを確かめる時間や場を設定する。1時間の授業を振り返ったり、単元の内容を振り返ったりする。また、単元の終末には練習問題やテストで確かめる。

(4) 生徒に学習の仕方を指導する

「効果的な勉強方法はどんな方法なのか。」に答えられるよう、学年部や教科群で検討し、生徒に指導する機会をつくる。校内研修で参考書の使い方や勉強時間の目安、いつ、何を学ぶべきかをより具体的に詳しく研修する機会を設けて「勉強しなさい。」から「こうやって勉強したほうがいいよ。」という具体的なアドバイスを与えられるようにする。授業中やテスト前に教科担任からはもちろん全職員で、生徒に学力向上の手立ての声掛けをできる体制を整える。

(5) チャレンジ学習

各ステージ（年間5ステージ制）1回、基礎学力テストを行う。教科は国語、数学、英語の3教科で水曜日の朝の会の終了後（テスト10分間、採点5分間）実施する。テストは3回セットで実施し、1回目と2回目はプレテストとし3回目をテストとする。3回目のテストではほぼ全員が合格となるように1回目と2回目のプレテストで指導を徹底する。テストの範囲は具体的に示し、あらかじめ類似した問題を基礎学習で学習できるように準備する。



(6) 家庭学習の充実

効果的な課題を設定して家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着とともに、自宅で勉強する習慣を付けるように指導する。具体的には、毎日の家庭学習として「漢字・数学・英語の1Pノート」に取り組む。これらを教科担任がチェックし、学習内容と提出状況を確認する。効果的な家庭学習を継続させることで確かな学力の定着につなげていきたい。

(7) 学習支援ボランティアを活用する

子ども育成支援協議会の学習支援ボランティアを活用し、放課後や長期休業時の学習支援をお願いする。本校職員との連携を図りながら、生徒一人ひとりに関わる人数を増やし、様々な視点で生徒を見取り、多様なサポートや励ましをして学力向上の一助としたい。

掛川市立原野谷中学校

第5章 我が校のものがたり

原野谷の里は、四季折々の美しい自然と世代を越えた人々の温かな心に彩られています。原野谷っ子は、純朴で、何事にも熱心に取り組めます。屋外では元気なあいさつ、屋内ではさわやかなあいさつが交わされます。学校の規模は小さいですが、仲間同士、気心が通じているよさがあります。一方、人間関係で悩みをもっている生徒も少なくありません。言われたことはできるのですが、自分で考えて行動すること、自分の考えを相手に伝えることを苦手としています。そんな原野谷っ子が、「心ゆたかに」「りりしく・かしこく・たくましく」成長することを我が校は目指しているのです。

校 訓 「心ゆたかに」
学校教育目標 「夢を抱き、汗を重んじ、感動求め、よりよく生きる生徒」
重点目標 「りりしく・かしこく・たくましく」

校訓の「心ゆたかに」は、自己中心的になりがちな心を戒め、人の痛みを感じる思いやりの心、礼節を重んじる心をもつこと。こころざしは高く、社会のために役立とうと、自己を磨き、汗を流すことの尊さを諭している言葉です。

この「心ゆたかに」を生徒の姿としてとらえると「夢を抱き、汗を重んじ、感動求め、よりよく生きる生徒」となります。我が校に伝わる古文書には「夢は自己を磨き高める目標である。実現のために努力を惜しまず、感動へとつなげ、夢・汗・感動、この一連の体験の中で自己を見つめる。こうした体験を重ねながら、生き方を高め、将来の夢やこころざしを育む」と書かれており、昔から原野谷の里の子供達（原野谷っ子）が目指した姿なのです。



「りりしく・かしこく・たくましく」は目指す原野谷っ子の姿を飾る言葉です。

「りりしい原野谷っ子」は、「いじめはしない させない 許さない」正しい心をもっています。また、やさしい思いやりの心もち、感性に富んだ国際社会に貢献できる心をもっています。

「かしこい原野谷っ子」は、基礎・基本が定着しており、思考力・判断力・表現力を身につけています。

「たくまい原野谷っ子」は、心と体の健康づくりと体力づくりを図り、生涯を通じて主体的に学び、たくましく生き抜く力をもっています。

「りりしく・かしこく・たくましく」は互いに連動している飾り言葉です。「かしこい原野谷っ子」を育てるためには、「りりしい原野谷っ子」、「たくましい原野谷っ子」も同時に目指さなければならないのです。「確かな学力」を身に付けるためには、その土台となる「健全な心」と「健康な体」が必要となるのです。我が校では、生徒、保護者、教職員が互いに連携し、原野谷学園の皆様の力を借りながら、原野谷っ子の心と体を育て、原野谷っ子の学力向上を目指します。

全国学力・学習状況調査では、日常生活と学力の関連性が指摘されています。読書の習慣や家庭における手伝いを行う割合が高ければ高いほど、学力調査の結果が良くなると言われています。〈学力の高い子 掛川の法則〉の分析結果からも、規則正しい生活習慣や家庭学習の充実が学力と関連していることが報告されています。調査の結果から、原野谷っ子は、言語活動や読解力の分野を苦手としていることも明らかになりました。家庭学習の状況も授業の予習を行っている割合が少なく、休日の学習時間も少ないことも明らかとなっています。

これらのことから、学力向上に向けた取組の重点をそれぞれ『学習の取組3ヶ条』『授業改善3ヶ条』『家庭環境力3ヶ条』にまとめました。それを生徒・保護者・教職員に提示し、共通理解をしながら取り組むこととしたのです。また防災教育やキャリア教育等も継続して力を入れ、原野谷っ子の学力向上を目指すこととしたのです。

1 取組の重点

(1) 『学習の取組3ヶ条』…当たり前前のことが当たり前前にできる心や態度を育てる

- ① 1分前には着席し、開始時刻に授業を始める
- ② 忘れ物をしない(授業の用具・提出物)
- ③ 人の話を聞き、積極的に活動(反応)する

(2) 『授業改善3ヶ条』…教職員が取り組む授業改善の柱を明確にする

- ① 読む・聞く・話す・かくを積極的に取り入れた授業
- ② 問題意識が生まれる発問の工夫
- ③ 自分の言葉でまとめさせる授業

(3) 『家庭環境力3ヶ条』…規則正しい生活習慣や家庭学習の充実を目指す

- ① 早寝・早起き・朝ご飯
- ② 毎日2時間以上の家庭学習をやり遂げる 家庭環境をつくる
- ③ 家庭の一員として仕事をもつ

2 その他の取組

- (1) 数学塾…数学の基礎学力の定着に取り組む
- (2) 朝読書…毎朝10分集中して読書を行い、「読む」ことの習慣化に取り組む
- (3) 1分間スピーチ…「自分の考えをまとめる力」「話す力」「聞く力」を育てる
- (4) 道徳教育・環境教育の充実
- (5) キャリア教育・防災教育の充実
- (6) 人間関係づくり…小規模校の特性を生かした縦割り集団の活動・交流

我が校には、「清麗の庭」と「清麗の鐘」があります。「清麗の庭」は平成元年に、「清麗の鐘」は平成6年に造られました。「清麗」とは、「学校生活が清く美しい状態であること、そして一人一人が希望をもつこと」を願ってつけられた名前です。朝と夕には美しい鐘の音が校庭に響きわたります。この鐘の音により原野谷っ子は心を落ちつかせ、今の自分を見つめ、未来の自分を思い描くのです。

この鐘は、原野谷っ子の夢や希望のシンボルとなっています。正面の門は未来への入り口を、階段状に積み上げられたレンガの塔は、人生の階段をイメージしています。塔の上に突き出た部分はこれから切り拓いていく道での様々な障害を表しています。未来へ羽ばたく原野谷っ子に、人生の中で出会うであろう幾多もの困難を乗り越える強い力を身につけるよう願いが込められているのです。この「清麗の鐘」が永久に清く美しい鐘の音を響かせて、原野谷っ子の心に潤いや夢を与えていくことでしょう。



このように、心を育てる取組み、学力の向上を目指した取組みを通して、原野谷っ子に「凜とした心」と「確かな学力」を身につけることができると考えています。授業の中で、「学びのユニバーサルデザイン」を意識し、原野谷っ子の学びを充実させ、わかりやすい授業を行います。また、「かけがわ道徳」の授業にも全教員で取り組みます。

「凜とした心」の土台の上に「確かな学力」を築き上げること、原野谷っ子に夢やこころざしを育み、それを実現させることのできる「力」を身につけることを目指すことにより、「我が校のものがたり」が「原野谷っ子一人一人のものがたり」になっていくのです。

掛川市立北中学校

第5章 我が校のものがたり

1 全国学力・学習状況調査の分析から（現状と課題）

本校は、全国学力・学習状況調査において過去いずれも県及び全国平均を上回る結果を残している。また、その内容もバランスよく身につけている様子が見えてくる。

一方、学校質問紙からは『教員研修・教職員の取組』の充実が、『家庭学習や生徒の状況』の成果に反映することが明らかになった。そこで、家庭学習の充実に力点をおき、指導したところ、前年度を上回る結果を得ることができた。

このように全体的には概ねよい傾向にあり、指導体制も機能しているが、さらに向上を図るために課題と具体的な改善内容を明確にすることが必要である。

本校は以下10の課題をあげ、この解決のための改善内容を明らかにした。

2 学力向上のための課題及び改善内容

課題	改善内容
1 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が授業力向上を図り、生徒の知的好奇心を刺激する魅力ある授業を展開する。 ・よい授業を見る。自分の授業を見てもらう。授業力を持つ人の話を聞く。 ・各教科外部講師を招聘し、校内授業研究会を開催する。 ・大学教員による教科研究会を行う。
2 校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○小集団学習、学習問題、授業スタイル、ノート指導に力点をおいた校内研修を推進する。 ・「小集団学習」を取り入れ、話し合いながら課題解決に迫る授業を行う。 ・学び合い高め合うことができる「学習問題」について研修を深める。 ・「本校授業スタイル」の共通理解、共通実践を図る。 (授業導入前に反復学習や小テストを実施する。学習問題を示すプレートを表示する。学習問題を黄色で囲む。小集団は3～4人。ホワイトボードの使い方など。) ・「ノート指導」を重視する。 (板書をただ書き写すノートから、仲間の発表や教師の説明を傾聴し、気づきやポイント、メモが書き込まれたノートへ進化できるように指導をする。)
3 基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○マンスリーテスト（平成14年度から実施）を継続して行う。 ・年5回、5教科（国、社、数、理、英）の基礎・基本問題を出題する。 ・50点満点で40点以上で合格とし、不合格者には再テストを実施する。 ・2週間前に出題範囲100問を周知し、1週間前より朝学習として10分間、全校で毎朝取り組む。 ・問題作成から再テスト実施まで全職員で指導し、生徒全員を合格させる。 ○授業の開始5分間（導入前）の反復練習、小テストを実施する。
4 言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○帰りの会開始前の5分間で1日を振り返って冀北ノート（本校オリジナル予定帳）に文章表現する時間帯（冀北タイム）を設け、書くことを厭わない生徒、書いて表現する力を育てる。 ○朝読書、読み聞かせ、図書室の活用などを通して生徒が本に関わる機会を増やす。

5 学習習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語・数学の1P学習、漢字書き取り等の家庭学習の方法を丁寧に指導する。 ・提出が滞りがちな生徒には2か月に一度、期間を設定し(5日間)、放課後に学年職員の指導のもと補充学習を行う。 ○長期休業における指導を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の課題は、部活動顧問が進捗状況を定期的に確認し、すべてやり遂げるよう計画的な学習習慣を指導する。
6 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○安心、安全な生活のための生徒指導の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・予防的、段階的指導を重視する。 ・生活向上アンケート(毎月)、人間関係アンケート(年2回)を実施し、いじめをはじめとする諸問題の早期発見に努める。 ・教育相談の日常化を図るとともに、年2回教育相談週間(8日間)を設け、生徒に寄り添いながら解決を図る。 ・生活指導担当者会(週1回、SCも参加)や学校経営委員会(週1回)にて、諸問題の把握、指導の方向性を検討・確認し、組織で対応する。 ○生徒の評価観の見直しを図る。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒を多面的に評価し、バランスを保って指導にあたる。
7 保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○全生徒対象の三者面談(7月、12月)をはじめ、希望面談、教育相談を教育課程に位置づけ、保護者に生徒の学習状況や課題を伝えながら、よりよい家庭生活や学習習慣を、本人・保護者とともにつくっていくよう努める。 ○PTA役員会、学校評議員会、学校便り等で必要な情報を発信し、家庭や地域と連携できる環境を整える。 ○来校者には積極的に授業を参観していただく。
8 定期テスト等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テストにおける完全解答づくりを指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・校内定期テスト、実力テスト、県学力調査等のテスト返却後に、単に採点結果に終始することなく、返却された自分の答案に向き合う時間を設ける。「なぜ、自分の考えは誤答になったのか」と、じっくりと振り返り、完全解答づくりの活動を授業に取り入れる。
9 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○かけがわ道徳(地域偉人・報徳精神)を通して「感動、誇り、こころざし、夢」等、将来につながる生き方を追究することにより、学習の意義や価値を生徒自らつかみ、確かな学力を身につける目的の明確化を図る。 ・言葉の力、言葉の教育を重視する。 <ul style="list-style-type: none"> 「生徒と親しく接する」ことと、「礼節を重んじる」ことを共立させ、言語活動の日常化を図る。
10 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○北中学校区学園化構想の一環として、積極的に地域人材を学校教育に取り込む。(授業や道徳、行事等) ○個への指導の充実のため地域人材を活用し、授業や放課後の学習支援を行う。 ○子どもの成長の連続性と発達段階を踏まえ、保幼小中の連携を密にし、教職員が相互に行き交い研修しあう体制をつくる。

掛川市立城東中学校

第5章 我が校のものがたり

「めざせ！尊徳」

起

・・・ものがたりの始まり

「報徳の教え」を引き継ぐ城東中生

勤労・至誠・分度・推譲

城東地区に生まれ育った城東中生のよさ

素直 やさしい 真面目

鍛えていかななくてはいけないこと

社会的な自立心 活力 表現意欲

基礎的な知識を活用する力 探究心

承

・・・授業改善と城東学園化構想を切り口に

地域・家庭と共に、全職員で子どもたち一人一人を育てます。



転

・・・授業改善からのアプローチ

- ① 研修テーマ『根拠』に基づいて表現し、思考力をはぐくむ指導の追求を意識した授業づくり
「なぜそうなるのか」「その理由は」という根拠を追求することで、思考力を高めていきます。
- ② まとめの時間を充実させる授業構成
授業で学んだことを最後に振り返り、自分の力を高めます。わかったことは生徒の言葉でまとめていき、授業の中で得た知識を確実に定着させていきます。生徒がノートやワークシートを見返したときに、既習事項を頭の中で整理させることで、基礎的な学力をさらに向上させます。
- ③ 個を大切にしたい指導・支援
赤ペンを用いた机間指導や支援を要する生徒に対する指導の工夫をします。また、国語、数学、理科の授業においてチームティーチングの授業を行います。つまずきのある生徒や内容の定着が不十分な生徒に対する個別支援を行います。

・・・城東学園化構想からのアプローチ

- ① 城東学園の教育力を活用
授業におけるゲストティーチャーや補充学習の支援者として地域の方を招き、魅力ある授業づくりと生徒の学力保障に努めます。
- ② 家庭学習の指導と確実な見届け
家庭の学習指導を、幼保小中で一貫して行っていくことを目的とし、「城東学園学習7か条」各家庭へ配付し、それを基に、各校種で子どもの成長段階に応じた内容を家庭へ働き掛けていきます。

結

・・・平成尊徳の誕生

中学3年間でこんな生徒に育ててほしい

- 校内でも校外でもさわやかなあいさつができる生徒
- 自分の意見をわかりやすく人に伝えることができる生徒
- 自ら考え、主体的に学び、探求することができる生徒

将来はこんな大人になってほしい

- 自ら変革を生み出すことができる人
- 自分のよさを生かすことができる人
- 礼儀を重んじ、周りへの気配りができる人



周囲から信頼される誠実さ、自分自身を磨くことができる強さを持った人

掛川市立大浜中学校

第5章 我が校のものがたり

1 今、学力向上に必要なことは？

平成24、25年度の結果から、本校の学力向上には基礎的・基本的な理解から取り組んでいくことが大切であると考え。また、生徒質問紙の状況からは、地域社会に積極的に貢献しようとするよさや自尊感情の高さも見られるが、規範意識をより高め、授業の充実感が得られるようにしていくことが課題である。

そのために、家庭学習の時間を平日、休日ともに増加させていき、その基礎となる規則正しい生活習慣を安定させていく必要がある。

さらに、授業においては「生徒間で話し合う活動をよく行っていると感じている」生徒は、授業が充実していると感じており、教科を問わず平均正答率が高いことから、授業の中に充実した話し合い活動を展開していくことが必要である。



大浜中学校
マスコット
「リップル」

大浜中学校は、学力向上を目指すためにどんなことに重点をおいているの？

- 次の3つに重点をおいて、学力向上を目指しています。
- ・学習指導要領が求める学力を明確にした授業づくり
 - ・落ち着いた学校生活づくり
 - ・生徒主体の特別活動づくり



2 学習指導要領が求める学力を明確にした授業づくり

(1) 授業づくり

「ともに高め合い、学力を伸ばす授業づくり」～追究活動の工夫～

生徒が課題解決に向かって主体的に活動するために、教師が授業展開で追究活動の方法を工夫する。その工夫により、生徒同士で高め合う意欲的な活動となり、学力を伸ばすことができると考える。

追究活動

- (ア) 追究活動の時間確保
- (イ) 追究内容の明確化
(追究したくなる疑問を生み出す工夫)

導 入 (課題)	10分 以内
学 習 問 題	
追 究	25分
ま と め	15分 以内

学習環境の充実

誰もがすぐに手に取れる教育図書コーナーの設置

ともに高め合い
学力を伸ばす授業
をみんなでつくら
う！



(2) 授業における学習四原則の意識化と学習ルールの徹底

- 1 学習用具・課題を忘れない
- 2 2分前着席を守る
- 3 集中して授業に取り組む
- 4 大きな声で元気よくあいさつをする

- (3) 補充学習
 - ア 放課後スタディ
 - イ テスト前補充学習（予想問題等）
 - ウ 学習会等

- (4) 家庭学習
 - ア 1ページ学習の実施
 - イ 読み取る力、書く力の向上（新聞記事の感想を予定帳に書く言語活動）
 - ウ 入試対策テキスト

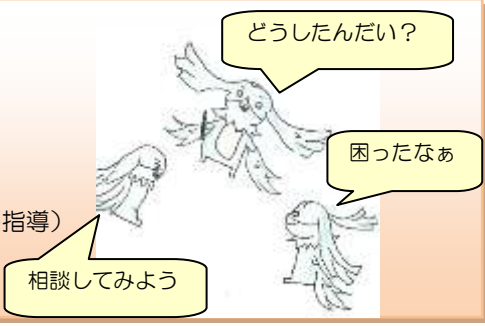
- (5) 読書活動
 - ア 朝 8:00 からの読書で落ち着いた一日のスタートをする。
 - イ 学校図書館司書との連携で魅力ある学校図書館づくりをする。
 - ウ 図書委員会で良書の紹介やブックトーク、読書実態調査を行う。

勉強って難しいけど、授業だけでなく補充学習も学校でやってくれるから嬉しいなあ～。
よーし！
勉強頑張ろう！



3 落ち着きのある学校生活づくり

- (1) 生徒と教師の信頼関係づくり：教育相談
- (2) 保護者と教師の信頼関係づくり：三者面談・参観懇談会
- (3) 生活指導を毅然と行うことにより家庭からの信頼を得る。
- (4) 授業の中での生徒指導（みだしなみや机、ロッカーの整頓等の指導）
- (5) 教師の意識改革（人権意識等を育む指導）



4 生徒主体の特別活動づくり

- (1) 特活主任を中心に生徒主体の運営となるよう心掛ける。
- (2) 生徒の頑張りの称揚…生徒作文、保護者の感想や来校者の言葉を有効に利用する。
- (3) 部活動の充実

大浜中学校区のみなさんで学校を盛り上げていきましょう！



家庭・地域との連携

「大浜中学校区子育て5か条」「掛川お茶の間宣言」の実践に向け、子ども育成支援協議会の協力を得て、保幼小と連携する。また、参観会や三者面談等で、保護者に啓蒙することにより家庭学習の充実を図る。

公共の施設に生徒の作品を展示し、足を運ぶきっかけをつくる。職場体験事前学習の講師を地元の方に依頼する。生徒を地域のボランティア依頼に積極的に参加させるなど、地域との連携を図る。

家庭・学校・地域

エネルギーに溢れる本校生徒は、心身両面のパワーをバランス良く発揮させ、文武が両立していけるような仕掛けをすることが大切であると考え。規範意識を高め、思う存分行事や部活動で自己表現し、授業と家庭学習に力を入れ「地域に自慢できる学校」を目指していきたい。

掛川市立大須賀中学校

第5章 我が校のものがたり

生徒の実態(よさ)

- ・驚きや感動など、素直に反応したり、つぶやいたりできる。
- ・課題に対して素直に取り組む生徒が多い。
- ・チャイム着席を守る意識が高い。
- ・自分の考えをもとようと努力している。
- ・学校行事にも、地域行事にも意欲的に取り組む。



生徒の実態(課題)

- ・諦めが早く、粘り強さに欠ける。
- ・他者の考えに左右される。
- ・考えを伝えるための語彙や表現力が不十分。
- ・家庭学習に対する意欲や習慣化が不十分。
- ・基礎的な学力が定着していない生徒が少なからずいる。

手立て①

〈教師による授業改善→校内研修〉

研究テーマ

**確かな学力の向上とかけがわ型スキル及び21世紀型スキルの育成を目指して
～おおすか型授業スタイルの確立～**

平成26・27年度掛川市教育委員会指定研究校

「ICTを活用した新たな学びによる21世紀型スキルの育成と学力向上」

【従来型】

導入
学習課題
学習問題
追究
まとめ

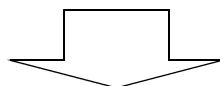
【おおすか型】

家庭学習(授業への意欲を高める予習)	
つかむ	・目標及び学習課題の提示 (学習課題はシンプルで分かりやすく)
追究する	・小集団を生かした学習活動 ・個人追究に十分な時間を配分する ・ICTを効果的に活用
まとめる	・結論を出す ・練習する ・わかりやすい板書 ・まとめ
家庭学習(定着させるための復習)	

- ※ 付けたい力を明確にした単元構想案(単元デザイン)
- ※ 授業カリキュラムの見直し(カリキュラムデザイン)

【従来型の授業】

生徒の思考の流れを大切にするあまり、導入時に多くの時間をかけ、追究やまとめの時間を十分にとることができないことがあった。



【おおすか型授業】

- ・付きたい力を明確にする（学習指導要領と生徒の実態をもとに）
- ・本時で何を追究するのか、早い段階で学習課題を提示する。
- ・追究やまとめの時間を十分に確保する。
- ・ICT機器の効果的活用及び小集団を生かした学習活動を行う。
- ・授業の事前には、授業への意欲を高める家庭学習を行う。
- ・授業の事後には、定着を図るための家庭学習を行う。



授業内容の定着



手立て②

〈学習指導の充実〉

- 1 授業評価項目 生徒も教師も常に意識する
①開始時刻＋授業準備 ②あいさつ（開始、終了）
③授業への集中 ④考えを伝えようとする
- 2 授業に臨む姿勢
- 3 小集団活動の充実

手立て③

〈基礎学力向上への取り組み〉

- 1 朝読書（読書指導の充実）
- 2 朝学習&教え合い学習会（定期テスト前）
- 3 家庭学習の充実
 - ・家庭学習時間調査
 - ・内容の充実（おおすか型授業）



手立て④

〈生徒と教師がともにめざす「大須賀中向上宣言」〉

- 1 私たちは礼儀正しい行動をします。
- 2 私たちは意欲的に授業に取り組みます。
- 3 私たちは一生懸命に清掃をします。

生徒と教師がともにつくる授業

めざす生徒像

意欲的に授業に取り組む生徒

- 〈達成の姿〉
- ・授業の開始時に挨拶が大きな声のできる
 - ・授業の開始の挨拶が大きな声のできる
 - ・授業に集中している
 - ・自分の考えを伝えようとしている（発表、話し合いなど）